
文化資源研究センター 活動報告

2011

人間文化研究機構
国立民族学博物館

はじめに

国立民族学博物館（民博）に文化資源研究センターが設置されて8年が経過しました。文化資源研究センターは2004年4月、国立大学の法人化に合わせ、民博が大学共同利用機関法人人間文化研究機構の一員として再編されたのを機に、博物館機能を有する研究所としての役割をより十全に発揮するために、研究戦略センターとともに設置されたものです。

文化資源研究センターは、研究活動を通じて蓄積されるさまざまな情報や資料、経験や組織を、社会での活用が可能な文化資源として改めてとらえなおし、その有意義な活用の方途を研究・開発することを目的としています。「文化資源」という言葉に託されているのは、人間が生み出した有形・無形の所産とそれをめぐる知を、民博の活動を通じて、より広く社会と共有しようという意志です。

研究の推進に伴う資料や情報の集積と発信は、調査・収集、資料管理、情報化、社会連携、展示といった分野からなる、一連のプロセスを経て実現されます。文化資源研究センターはこうした各分野の基礎研究や開発研究を進めるとともに、民博の研究者が主体となって実施する「文化資源プロジェクト」と「文化資源計画事業」を支援し、その推進のうえでの企画調整を行なっています。

2011年度、文化資源研究センターでは、プロジェクトや事業の支援として、資料収集や映像番組制作、資料修復の技術開発、各種データベースの構築や展示活動、教育プログラムの開発実施など、61件のプロジェクトや計画事業の実施を企画調整しました。

なかでも、2010年度に引き続いて2011年度は、民博の本館展示のうちヨーロッパと情報展示を一新しました。本館展示の新構築は開館以来の全館を挙げての大プロジェクトであり、しかも展示そのものにとどまらず、収集、保存、情報化のすべての分野にまたがる複合的な事業です。文化資源研究センターはその全体の企画調整にあたっています。

2011年3月11日に起きた東日本大震災に際して、文化資源研究センターでも被災した文化財等の救出や保存についても、可能な限りの協力・支援を行なうよう努めてまいりました。今後とも、こうした活動を通して、被災地の一日も早い復興を心より祈念するとともに、被災された皆様には心よりお見舞い申し上げます。

文化資源研究センターの活動について、ここに2011年度の年次報告を刊行するにいたしました。これまでは紙媒体による報告書を作成してまいりましたが、今年度からは電子媒体のみとし、本館ホーム・ページでご覧いただけるようにしました。

民博は大学共同利用機関であり、博物館機能を有する文化人類学・民族学の研究所であるという、世界的に見ても類のないユニークな組織です。その特徴を最大限に発揮するため、私たち文化資源研究センターは大きな職責を担っています。この場を借りて、今後とも、各方面からのご助言、ご支援をお願いする次第です。

2012年10月

文化資源研究センター長

朝倉敏夫

目 次

はじめに	2
文化資源研究センターの活動 2011（平成23）年度	
2011年度の活動概要	5
調査・収集分野	7
資料管理分野	8
情報化分野	10
社会連携分野	13
展示分野	15
資 料 編	
調査・収集分野	19
資料1. 文化資源プロジェクト	19
資料2. 文化資源計画事業	21
資料管理分野	25
資料1. 文化資源プロジェクト（機関）	25
情 報 化 分 野	26
資料1. 文化資源プロジェクト	26
資料2. 2011年度に公開したデータベース	27
資料3. 編集した研究用映像資料（文化資源プロジェクト）	28
資料4. 編集したビデオテーク短編番組と マルチメディア・コンテンツ（文化資源プロジェクト）	28
資料5. 2011年度に公開したビデオテーク短編番組、 マルチメディア・コンテンツ、研究用映像資料	30
社会連携分野	33
資料1. 文化資源プロジェクト	33
資料2. 文化資源計画事業	34
資料3. JICA との連携による博物館学集中コース	39
展 示 分 野	46
資料1. 文化資源プロジェクト（機関）	46
資料2. 特別展（文化資源プロジェクト）	46
資料3. 企画展（文化資源プロジェクト）	47
資料4. 特別展・企画展の準備（文化資源プロジェクト）	47
資料5. 巡回展（文化資源計画事業）	48
資料6. その他の文化資源プロジェクト	49
資料7. その他の文化資源計画事業	50
スタッフ紹介（2011年度）	68

●.....●

文化資源研究センターの活動

2011(平成23)年度

●.....●

2011年度の活動概要

文化資源研究センターは、国立民族学博物館（民博）の文化資源の蓄積、管理や活用にかかわる多様な側面について、調査・収集、資料管理、情報化、社会連携、展示の分野から、先進的な基礎研究や開発研究を行なっている。

また、文化資源研究センターは、民博の研究者が主体となって提案、実施する「文化資源プロジェクト」「文化資源計画事業」の推進を支援している。そのためセンター教員は文化資源運営会議のもとにおかれた「資料収集・整理等専門部会」、「資料管理専門部会」、「展示場情報提供システム専門部会」、「博物館社会連携専門部会」、「展示専門部会」に所属し、当該文化資源プロジェクト等の企画調整に当たっている。それぞれの専門部会に所属する文化資源研究センター教員は以下のとおりである。

〈専門部会〉	〈センター教員〉
資料収集・整理等専門部会	久保正敏 日高真吾（部会長） 福岡正太 山本泰則 吉田憲司
資料管理専門部会	園田直子（部会長） 日高真吾 福岡正太
展示場情報提供システム専門部会	福岡正太（部会長） 南真木人 山本泰則
博物館社会連携専門部会	伊藤敦規 上羽陽子 小林繁樹（部会長）
展示専門部会	飯田卓 伊藤敦規 上羽陽子 日高真吾 南真木人 吉田憲司（部会長）

本報告書では、活動内容を5つの分野別にわけて、各分野を担当する部会長が報告している。

冒頭にも述べたように文化資源研究センターは2004年度に設置され、その後4年が経過した2008年度にその前年度の2007年度版『文化資源研究センター活動報告（以下、『活動報告』）』が刊行され、以降、文化資源研究センターの活動が紙媒体として残されてきた。

これらの記録を見るまでもなく、文化資源研究センターは、民博のいわゆる「博物館部門」に関するあらゆる業務を担ってきており、きちんとした成果を上げてきたことはいうまでもない。ここでは、この『活動報告』を書くにあたり、本年度から新しく文化資源研究センター長になり1年を振り返っての私の個人的所見を二つだけ述べさせてもらおう。

一つには、文化資源研究センターの構成メンバーが固定化してきたため、民博の博物館部門の業務に対して、本センターにまかせっきりとなり、民博の教員全員で博物館部門の業務を担っていかうという意欲がいささか欠如してきているように感じた。

裏返してみると、専門部会の構成において、文化資源研究センターにおかれたタスクフォースのメンバーがその多数を占め、他の研究部に所属する本館教員が少数しかいないという形になっているため、タスクフォースと専門部会の本来の役割分担が重複してきている。その結果、他の研究部教員が博物館部門に関する業務にほとんど携わることがなくなってしまうている。できれば、民博の教員が「一体となって」博物館部門についても役割を担うことを期待したい。

二つには、『活動報告』には、事業、業務の内容が記載されているだけで、文化資源研究センターの教員の研究活動についての報告がない。いわば「活動報告」というより「事業報告」になっている。そのため、文化資源研究センター自体が「研究センター」というよりは「業務センター」という認識を与えてしまう恐れがあるのではないかと感じた。

民博の教員の研究活動については本館『研究年報』にそれぞれ報告されており、それを見れば文化資源研究センターの教員が多くの研究業績をあげていることは一目瞭然である。ただ、今年度の『活動報告』を見ても、私たちが研究センターとして、文化資源に関する研究プロジェクトをより積極的、活発に推進し、その成果を発信してきたかという反省は残る。

最後に、本年度の活動としては、本館展示新構築の4年次「インフォメーション・ゾーン」ならびに「ヨーロッパ」展示を構築するとともに、春には「ウメサオタダオ展」、秋には「千島・樺太・北海道 アイヌの暮らし——ドイツコレクションを中心に」と二つの特別展を開催した。これらの事業をはじめ、文化資源研究センターに関する日常のルーティンの事業、業務のすべてを遂行できたのも、情報企画課、情報システム課をはじめ多くの関係者の支援・協力があったのである。ここに記して感謝する。

文化資源研究センターの活動は多様で広範囲にわたり、しかも研究と事業、業務にまたがる複雑な性格を有している。設立後8年が過ぎ、文化資源研究センターに課された責任と課題は、ますます大きくなっている。

（朝倉敏夫）

調査・収集分野

文化資源研究センターは、文化資源の調査・収集、体系的な資源管理と情報化を経て、共同利用や社会還元に供するという一連の流れに関わる基礎研究・開発研究とともに事業推進の企画・調整をおこなうことを目的としている。この一連の流れの核の一つである資料の収集と管理について、2007年度に、(1)標本資料・映像音響資料の収集、(2)標本資料・映像音響資料の整理・情報化、(3)標本資料・映像音響資料の利用・貸付、に関する検討を行うことを目的に「資料収集・整理等専門部会」が新設され、同年11月から活動を開始した。この結果、文化資源研究センターは、この専門部会との連携を通じて当該分野の企画調整に当たることとなった。

この分野での主な作業は、以下のとおりである。

- 1) 文化資源プロジェクトとして実行されるもののうち、収集・取材・編集プロジェクト、ならびに資料整理・情報化プロジェクトの進行状況の点検と助言
- 2) 標本資料の貸付、映像音響資料の利用の適否の検討と促進
- 3) 購入・寄贈等の案件の事前確認と検討
- 4) 「みんなく映像民族誌」(DVD) の配付

2011年度の作業について、まず、1) 文化資源プロジェクトとして実行されるもののうち、収集・取材・編集プロジェクト、ならびに資料整理・情報化プロジェクトの進行状況の点検と助言については、888点の標本資料を収集するとともに、5件の映像取材を実施し41点の映像番組を取得した。これら個別の案件については資料編を参照されたい。

2) 標本資料の貸付、映像音響資料の利用の適否の検討と促進については、標本資料については、11機関に対して合計636点の資料の貸し付け利用があった。また、映像音響資料については、187件2,866点（館外者100件777点 館内者87件2,089点）の利用があった。3) 購入・寄贈等の案件の事前確認と検討については、個々に検討と調整を進めた。それぞれの案件については資料編を参照されたい。4) 「みんなく映像民族誌」(DVD) の配付については、5巻セット（「第1集 伝統をつなぐ中東世界」、「第2集 現代アフリカの都市」、「第3集 世界のチャルメラ」、「第4集 こんぶ漁」、「第5集 中国雲南西北部少数民族の宗教儀礼」）を全国の国公立大学、都道府県中央図書館等のうち、689機関に配付した。その結果、75機関より、主に映像資料の視聴・貸出環境を用意していないとの理由で今後の配付は不要との返事があった。来年度はこの結果をもとに、さらに配付先の戦略を練りながら、効果的な配付に努めたい。

(日高真吾)

資料管理分野

[概 況]

民博では、研究の進展に伴い、毎年、各種の資料を集積している。資料管理分野では、さまざまな研究でこれらの資料を有効に活用することができるよう、資料管理基盤の確立を目的とした文化資源プロジェクトを行っている。

文化資源プロジェクト（機関）「有形文化資源の保存・管理システム構築」は、民博所蔵資料の総合的保存管理システムの構築をめざすものである。文化資源プロジェクトの枠内であるため単年度ごとの申請となっているが、毎年度、見直ししながら継続的かつ戦略的に進めている。資料管理分野では、同プロジェクトを中心に、標本資料関係では情報企画課の計画事業、映像音響資料関係では情報システム課の計画事業と綿密な連携をとりながら、総合的かつ長期的視点で全体計画を進めている。

同プロジェクトは、1）有形文化資源の保存対策立案と、2）資料管理のための方法論策定を主軸に、民博の一連の保存科学研究の成果を実践し発展させる開発研究と臨床実験の場という位置づけを持つ。

[成果概要]

1）有形文化資源の保存対策立案

総合的有害生物管理（IPM）の考えのもと、有形文化資源の生物被害防除・殺虫対策に関わる資料管理活動を企画、総括した。虫トラップによる生物生息調査の結果は、人間文化研究機構・連携研究の一環で研究開発した生物生息調査分析システムを活用し分析することで、生物被害発生箇所や発生害虫の絞り込みを効率的に行うことができ、防虫対策の策定につながっている。化学薬剤を使用しない殺虫処理法の開発としては、多機能燻蒸庫での二酸化炭素処理の実用化を目指し、2009年度の試運転、2010年度のプログラム改良・変更につづき、2011年度には再度気密試験を実施するとともに、プログラム変更後の稼働状況を確認し、実用化の目途をつけることができた。また、可搬型の窒素発生装置による低酸素濃度処理の予備実験として、気密性の高いフィルム、あるいは気密性は落ちるが安価な素材の袋、それぞれにおける酸素濃度や温度・湿度の推移に関する基礎データを集積し、実用化のための条件設定を進めた。

2）資料管理のための方法論策定

館内約150ヶ所において、温度・湿度データロガーによる調査を継続実施し、その結果を月毎に分析し検証するとともに、年間の温度・湿度推移を総合的に解析することで空調制御のレベルを評価した。人間文化研究機構・連携研究の経費で操作性を向上させた温度・湿度分析システムを検証し、次の改良へとつなぐよう問題点を抽出した。また、館内での空調関連の問題点と情報の共有を目的に、資料管理タスクフォースのメンバー、収蔵庫を管理する情報管理施設の職員（標本資料は情報企画課、映像音響資料は情報システム課、図書資料は情報サービス課）、管理部財務課施設係、空調管理を受けもつ中央監視室の代表者からなるミーティングを、隔週開催し、保存環境の監視・制御体制の強化に努めている。

資料の収蔵・保管方法の適正化を目指す収蔵庫再編成の一環として、通常の手法では扱いきれない資料287点については1点ずつ収納・保管方法の研究開発に取り組んだ。新たな収納・保管



具が必要となる長尺資料は、形状等をタイプ別に分類したうえで、それぞれに応じた保管方法の試作とプロトタイプ作成を進め、来年度以降の本格的再配架に備えた。加えて、館長リーダーシップ支援経費により、第3収蔵庫収蔵資料の一部（2181点）の再配架を行った。

博物館の展示・収蔵で安全に使用できる包材を選択するための指針を見出すことを目的に、包材に関する調査を継続実施している。これまでに情報収集・調査した包材のデータは、逐次、データベースにまとめている。

3) その他

資料管理における重要項目である照度調査、温度・湿度のモニタリング調査をはじめとする各種環境調査は、特別展、企画展、あるいは本館展示場における新構築の場において必要に応じて、逐次、実施し検証している。

1) 2) 3) を通じて得られた知見や成果は、情報管理施設情報企画課や情報システム課での資料管理業務に反映させることで、プロジェクトの研究的側面と、各課の日常的実践が乖離せずに有機的に繋がる関係になるよう配慮している。

(園田直子)

情報化分野

情報化分野では、(1)資料の整理・情報化とデータベースの作成・公開にかかわる文化資源プロジェクトや文化資源計画事業（以下、プロジェクト・事業）や、(2)ビデオテープや電子ガイドをはじめ展示場における情報提供にかかわるプロジェクト・事業の支援を行っている。これらは、資料収集・整理等専門部会、展示場情報提供システム専門部会と連携し、実際の作業にあたる情報システム課、情報企画課の協力のもとに進められる。

(1) 民博がもつさまざまな文化資源を整理・保管し、それらの情報を採録、データベースやデジタルアーカイブを作成して公開する2011年度の活動は次の4つに大別できる。

1) 資料の整理

情報化を前提として、さまざまな資料を整理し基本情報をテキストデータとして採録するプロジェクト・事業や、資料の保存状態を確認するプロジェクト・事業の実施を支援した。特に写真資料・映像資料に関するものは、資料の保存状態の点検と保存方法の検討や著作権の調査と譲渡手続、肖像権と一般公開の可否の検討もこれらのプロジェクト・事業に含まれている（資料編 情報化分野を参照）。

2) データベース、デジタルアーカイブの作成と公開

データベースやデジタルアーカイブの作成と公開にかかわるプロジェクト・事業について、実施のためにさまざまな支援を行った（資料編 情報化分野を参照）。

以下は、個々のプロジェクト・事業として必ずしも明確化されていたわけではないが、民博の情報化にとって重要な活動の一環として支援を行った。

3) 標本資料の画像・計測情報の点検と修正

標本資料の画像管理情報と寸法・重量の計測情報を管理している複数のデータベースを照合し、データの不整合を可能な限り修正した。

4) 統合検索システムを通じたデータベースの公開

民博からのデータベース新規館外公開にともない、人間文化研究機構の「統合検索システム」（データベース横断検索システム）を通して、次の2データベースを利用できるようにした。

- ・「日本昔話資料：稲田浩二コレクション」データベースを新規に公開した。
- ・「音楽・芸能の映像」データベースについて、一時切れていた民博の原データベースへの参照リンクを復旧させた。

「音楽・芸能の映像」データベースについては、人間文化研究機構資源共有化事業の予算を得て、撮影地の緯度経度情報、撮影日情報を含むデータの点検と整備をおこなった。これらは、2012年

度に運用を開始する新統合検索システムに反映される予定である。

国立国会図書館が運用してきたデータベース横断検索システム PORTA の後継システムである「国立国会図書館サーチ (NDL Search)」から、民博が統合検索システムに提供している12のデータベースが検索利用できるようになった。

今年度は画像・動画・音声コンテンツを含むデータベースが数多く公開されたが、ほとんどは館内限定公開にとどまっている。これらのコンテンツの多くは館外に著作権や肖像権があり、データベースを館外公開するには利用許諾を得る必要があるためである。撮影者や著作権継承者を特定し、利用許諾や著作権譲渡の了承を得ること、写真に写っている人物の肖像権を考慮して公開の可否を検討することは時間を要する作業であるが、地道に継続してできるだけ多くの情報を公開できるよう努力することが不可欠である。

データベース作成関連のプロジェクト・事業では、当初の予定どおり進まなかったものがある。今年度は民博の情報基盤システムの更新とビデオテークシステムの更新が同時に行われたため、情報システム課のスタッフが情報化分野のプロジェクト・事業の支援に十分時間を割けなかったことも一因であると考ええる。

民博が研究資料の情報化を始めて30年以上が経過した結果、蓄積している情報間の不整合が目立つようになっている。プロジェクト・事業の支援と並行して、これらの点検・整理・修正も行ってきたが、完了するまでに少なくともあと1・2年を要すると思われる。より適切な形で情報を作成・蓄積・維持・利用するために、作成する情報の仕様を見直し、研究資料の受け入れ・整理体制までも含めた情報化手順の再検討が求められる。

最後に、民博として今後どのような情報を作成し提供していくことが学界や社会に貢献することになるのか、長期の総合的な展望と戦略が必要である。

(山本泰則)

(2) 展示場における情報提供は、ビデオテーク、みんなく電子ガイドのほか、学習コーナーなどにおいておこなってきた。また、それぞれの展示チームの判断と責任により、いくつかの展示場においては、情報提供のための端末が展示の一部として設置されている。2011年度には、本館展示新構築の一環として、一部ビデオテークブースを撤去し、旧学習コーナーを吸収発展させて探究ひろばが設置された。さらに、ビデオテークの更新等をおこなった。このうち、ビデオテークとみんなく電子ガイドにかかわる事項について、情報システム課のサポートの下、文化資源研究センターの映像音響タスクフォースが中心となり、展示場情報提供システム専門部会と連携して、機器更新等の計画と実施、システムの運営および維持管理における諸問題の検討、本館展示の新構築に伴う新コンテンツ作成の計画と実施、次世代システムの検討と実験等をおこなった。

1) ビデオテーク関連

前回の更新から約6年が経ち、安定的な運用の限界に近づいたと考えられるビデオテークの更新をおこなった。更新にあたり、次の5点の改善を目標として設定した。すなわち、①

映像作品の画質の向上、②映像視聴環境の改善、③多様な映像素材の活用、④番組検索方法の改善、⑤メニューの日英2言語化である。そして、これらを次の6点の更新内容に切り分けて、実施の可否を検討した。①インフラの更新（電気配線、ネットワーク回線）、②廃止が決まったインフォメーションおよびビデオテーク案内カウンター跡地への新ブースの設置、③現ビデオテークブースの改善(a)内装レザー張り替え、(b)新しい機器にあわせたブースと機器設置環境の改善、④ビデオテークシステムと機器の更新、⑤映像番組の再エンコード、⑥多機能端末室の新構築。その結果、目標③とそれにかかわる更新内容⑥については、2012年度以降の継続課題とし、残る諸点について2011年度中に更新を実施した。また、探究ひろばでより充実した情報提供をはかり、ビデオテークとの有機的連関を作り出すために、旧新着資料展示コーナーに接して配置されていたビデオテークブース1列を撤去した。

2) みんなく電子ガイド関連

本館展示新構築の進展にともない、みんなく電子ガイドの新番組作りを進めている。新構築された展示について、まず日本語による番組を作り、それを基に英語、中国語、韓国語の番組を製作した。2011年度末までに、アフリカ、西アジア、オセアニアの各展示については、日本語、英語、中国語、韓国語のコンテンツが全て完成した。今後も継続的に多言語による番組製作を進める予定である。一方、来館者の多様なニーズに答えるため、UDペンを使用した音声ガイドの導入についても検討を進め、その成果の1つとして、探究ひろばの「世界をさわる」コーナーにUDペンを導入し、音声による解説パネル等の情報提供を始めた。

(福岡正太)

社会連携分野

【概 況】

文化資源研究センターの社会連携分野では、国内外の博物館や大学等との学術連携、ならびに、来館者をはじめとした一般利用者との社会連携、教員等の学校関係者との博学連携を通して、民博における文化資源を系統的、有機的に幅広く共同利用していくためのネットワークづくり、手法開発、試行的実践に取り組んできた。具体的には、館内における博物館社会連携専門部会、博物館学集中研修専門部会、情報企画課社会連携グループ等と連携をとりながら、館内教員が提案した「文化資源プロジェクト」と、大学共同利用機関としての共同利用基盤を整備するとともに、研究成果を普及することを目的とした「文化資源計画事業」を遂行してきた。

【文化資源プロジェクト】

1) 博学連携教員研修ワークショップ2011 in みんなく (33頁の資料1-1)

民博の展示場や所蔵資料を教育活動に活用した具体的な実践例をもとに、博学連携のさまざまな可能性をさぐるためのワークショップを、学校の教員対象に実施した。ワークショップは学校の教員研修に適した夏休みに原則として行ない、ワークショップの実践とそれにもとづく議論を学校教員と民博のスタッフとの間で行なった。

2) カムイノミ及び重要無形民俗文化財「アイヌ古式舞踊」演舞の実施 (33頁の資料1-2)

民博が所蔵するアイヌの標本資料に対して、安全な保管と後世への確実な伝承を目的に、祈りの儀式(カムイノミ)を行なった。あわせて国の重要無形民俗文化財であるアイヌ古式舞踊の演舞を、一般公開で実施した。

3) 「表現で出会う・表現でつながる」(33頁の資料1-3)

2008年度10月にスタートした共同研究「民族学博物館における表現創出を活用した異文化理解プログラムの開発——多元的な場での“気づきの深化”のデザイン化」の研究成果を実験的なワークショップとして実践の場で展開するものである。最終年度である2011年度は過去2回の成果を、学校教育や社会教育現場に還元する手法の開発を目的として検討を進めた。

【文化資源計画事業】

1) 「みんなく」の新規および改訂版の制作 (34頁の資料2-1)

学習キットみんなくは、学校機関や各種社会教育施設を対象に、民博の研究成果をわかりやすく伝えることを目的とした学習キットであり、2011年4月現在で11種類20パックが用意されている。異文化との出会いにおいてどのようにものを見つめ、それらと語らうことができるのか、その先にある物語をどう読みとるのかという民博ならではのコンセプトで企画、設計されたものであり、総合学習への利用や民博見学に関わる事前、事後学習に活用されている。

しかし、「みんなく」の中には損傷の激しいものや時代にあわなくなっているものがあるため、体系的な推進の方式について検討を始めた。そして事業を段階的に進めるために、新規版として利用者のリクエストが多かった「モンゴル—草原のかおりをたのしむ」を2パック製作し、さらに「イスラム教とアラブ世界のくらし」の改訂版を製作している。

2) ワークショップの実施ならびにワークシートの運用 (34頁の資料2-2)

民博で行なわれる各種研究活動ならびに展示内容を、来館者を中心とした一般利用者により効果的、効率的に理解してもらおうと同時に、一般利用者から様々な意見や情報をフィードバックさせることを目的としたワークショップならびにワークシートの開発を実施した。

3) ボランティア活動支援 (34頁の資料2-3)

民博に登録している2団体(みんなくミュージアムパートナーズ、地球おはなし村)の活動支援を行なった。

みんなくミュージアムパートナーズ(通称MMP)は、民博の博物館活動の企画や運営をサポートする自律的な組織として2004年9月に発足した団体で、館内で視覚障がい者を対象とした展示場案内、休日・祝日等のイベント企画とその運営、学校団体向けの展示場体験プログラムの企画とその運営といった、多岐に広がる活動を民博との協働で進めている。

地球おはなし村は、2003年に民博で開催した特別展「西アフリカおはなし村」を契機とし、2005年10月に発足した団体である。館内における音楽活動や昔話の語り活動等を行っており、近隣の児童センター、小学校および児童福祉施設などでも広く活動を行なっている。

両団体は、国立民族学博物館におけるボランティア活動を継続的に推進していて、民博にとって無くてはならない市民活動の場となってきた。両団体の活動内容の紹介や報告等を通じた交流も継続的に行なうほか、本年度は他組織とのボランティア交流会へも参加するなど、民博と市民をつなぐ結節点の一つとしての役割を果たしている。

このほかに、博物館学集中研修専門部会が民博を代表し、国際協力機構(JICA)からの委託を受け、滋賀県立琵琶湖博物館と共に実施する「博物館学集中コース(Intensive Course on Museology)」も開催された。これについては、39頁の資料3を参照されたい。

博物館部門の社会連携においては、校外学習や事前・事後の学習に役立つ民博のツールを紹介する「先生のためのガイダンス」や学校団体や身体障がい者向けの展示場体験プログラムなど、いくつもの事業を広報企画室企画連携係あるいはみんなくミュージアムパートナーズと共同あるいは協力して行なってきた。

このように社会連携は、館外、館内のさまざまな機関・部課との幅広い協力関係によって実現されるものであり、今後もその媒介機能を十分に果たしていくことが課題である。

(小林繁樹)

展示分野

文化資源研究センターにおいては、展示タスクフォース担当者が、展示専門部会の部会長、その下部組織の特別展・企画展ワーキング・グループのリーダー、ならびに本館展示新構築総括チームのリーダーを務め、さらにその他のセンター教員もそれらの組織の中心的メンバーとして活動するかたちで、民博の展示活動の企画・調整・支援に当たってきた。以下、「本館展示」、「特別展」、「企画展」、「巡回展」のそれぞれの分野に分けて、平成23年度の活動を報告する。

【本館展示】

平成23（2011）年度は、平成20年度から開始された本館展示新構築の第4年次にあたり、本年度は、情報展示場、イントロダクション展示からなる「インフォメーション・ゾーン」ならびに「ヨーロッパ」展示を新たに構築し、平成24年3月に一般公開した。

具体的には、本館2階展示場のうち、中央パティオ「未来の遺跡」を取り囲む回廊部分をインフォメーション・ゾーンとして新たに整備した。このゾーンは、展示場への導入の役割を果たす「イントロダクション展示」、民博の研究や展示をより詳しく知ることができる「探究ひろば」、世界のさまざまな地域の生活や文化を紹介した映像番組を視聴できる「ビデオテーク」からなる。これら、機能の異なるセクションを有機的に配置し、民博の展示とその外に広がる世界を情報でつなぐ空間を実現した。

「ヨーロッパ」展示では、時間の流れを全体の基調テーマとしつつ、伝統的な生活様式と宗教、近代の産業化、そして現代の新たな動きが層を成してヨーロッパを作り上げていることを示す展示を新たに構築した。

本館展示新構築もこれで全体のほぼ半分の展示場について作業を終えたことになる。「ヨーロッパ」展示では、グローバル展示、歴史的展開の結果としての現代の姿の提示など、新構築の基本コンセプトを明快に表現した展示が実現した。また、とくに入口・出口に当たるインフォメーション・ゾーンが完成したことにより、新たな民博の姿が、誰の眼にも強く印象づけられる結果となった。

【特別展】

平成23（2011）年には、小長谷有紀（民族社会研究部教授）を実行委員長として、3月10日から6月14日の会期で、春の特別展として「ウメサオタダオ展」を開催した。この特別展は、国立民族学博物館を創設し、初代館長をつとめて、2010年に逝去した梅棹忠夫の足跡をたどりながら、その思想の先見性や実効力をあらためて見つめ直そうとしたものである。名著『知的生産の技術』（1969年岩波新書）ができるまでの、カード、ござね（メモの連なり）、直筆原稿などを初公開するとともに、著作集全22巻をとりあげ、それらがどのような観察記録から生まれたものかを復原した。あくなき好奇心を発揮し、世界をあるき、ひらめきをのがさず、未来を想像し、文明論を構築していった、知的先覚者の軌跡をたどることで、混迷の時代をこえて未来をつくる羅針盤を提示する試みとなった。

なお、この展示は、一部改編のうえ、平成23（2011）年12月21日から平成24年2月20日まで東京・日本科学未来館で「ウメサオタダオ展－未来を探検する知の道具－」として巡回・開催している。

また、平成23年10月6日から12月6日までは、佐々木史郎（民族文化研究部教授）を実行委員長として、特別展「千島・樺太・北海道 アイヌの暮らし——ドイツコレクションを中心に」を開催した。この展示では、ライプツィヒとドレスデンの民族学博物館から152点の資料と30点あまりの写真を借用して展示するとともに、これらとほぼ同時期に収集された民博の所蔵資料（東京大学旧蔵資料）もあわせて展観した。この展示は、アイヌ文化が急激な変化を被りつつも、その独自性を残していた100年前のアイヌの人びとの暮らしを振り返るとともに、その生活用具製作の技術の高さと、工芸としての完成度の高さを確認した。また同時に、当時、黎明期にあった日本の人類学の活動の一端を検証することともなった。2011年は、日独交流150周年にあたり、本特別展はその関連事業の一つとして開催したものである。

【企画展】

民博では、特別展より規模が小さな、期間を限った展示を実施する場として、本館展示場の中に、企画展示場 A（展示面積約290m²、大学共同利用型展示場）と企画展示場 B（展示面積約130m²）の二つの展示スペースを設けている。平成23年度には、これらの展示場で、ふたつの企画展が実施された。まず、平成23（2011）年3月1日から6月14日まで、企画展示場 A で吉田憲司（文化資源研究センター教授）の担当により企画展「民族学者 梅棹忠夫の眼」を開催した。梅棹忠夫は、世界各地で自身が撮影した写真のなかから自ら46点を選び、写真展「民族学者 梅棹忠夫の眼」を1982 年から2010年にかけて国内各地で開催している。今回の企画展は、特別展「ウメサオタダオ展」の開催にあわせ、その写真展を再現したものである。この展示は、日本写真家協会会員でもあった民族学者・梅棹忠夫が、カメラ・レンズを通して「眼」をこらした世界をあらためて見つめ直すことで、梅棹忠夫の世界に対する姿勢を再確認するとともに、人類学と写真との関係についても再考する機会となった。

続く平成23年9月22日から11月29日にかけては、三尾稔（研究戦略センター准教授）の担当により、同じく企画展示場 A において、企画展「インド ポピュラー・アートの世界～近代西欧との出会いと展開」を開催した。この展示は、19世紀後半から20世紀前半にかけて西欧文明との出会いの中で誕生し、ユニークな発展を遂げたインドのポピュラー・アートに焦点を当てたものである。インドのポピュラー・アートを長年研究してきたインド視覚芸術センター所長のジャイン博士のコレクションの中から、印刷宗教画、彩色写真、絵葉書、ポスター、カレンダー、マッチやたばこの包装紙画など約140点を展示し、その成り立ちや魅力を紹介した。日用品の中の芸術として人びとの生活に根づいて発展してきたインドのポピュラー・アートを読み解くことで、今日の「インド」イメージの源流をたどった。

【巡回展】

平成23（2011）年には、上記の館内での特別展・企画展のほか、民博の展示の館外への巡回展が積極的に開催された。

まず、平成22年9月16日から12月7日まで民博で開催した特別展「彫刻家 エル・アナツイのアフリカ」が、平成23年2月5日から3月27日までの神奈川県立近代美術館・葉山での開催に続き、4月23日から5月22日まで山形県の鶴岡アートフォーラム、7月2日から8月28日まで、埼玉県近代美術館で開催された（担当：川口幸也・民族文化研究部准教授）。ガーナ生まれでナイジェリア在住の彫刻家エル・アナツイの作品70点を展観するとともに、民博の所蔵資料および現

地であらたに収集した資料をあわせて展示し、作品の背後にある文化的、歴史的、風土的な文脈を考察したその展示は、民族学博物館と美術館、文化人類学と美術史学の枠を超える試みとしても、貴重な機会となった。

一方、平成23年7月30日から9月4日にかけては、「マンダラ展——チベット・ネパールの仏たち」が、長野県の松本市立博物館で、民博の巡回展として開催された（担当：南真木人・文化資源研究センター准教授）。平成15（2003）年に民博で開催した同名の特別展を再編して公開したものである。本展覧会については、インド・チベット・ネパール・ブータン・日本といったアジア各地の神像・仏像・絵画等を広く日本国内の多くの人びとに紹介すべく、全国各地で巡回展示が続けられてきている。民博の展示活動の継続的展開としても重要な活動として位置づけられるものである。

本年度、平成23（2011）年の春に開催した特別展「ウメサオタダオ展」も、同じ年度内に巡回展開催が実現した。すなわち同展は、一部改編のうえ、平成23（2011）年12月21日から平成24年2月20日まで東京・日本科学未来館で「ウメサオタダオ展－未来を探検する知の道具－」として一般公開している。

（吉田憲司）

資料編

調査・収集分野

資料1. 文化資源プロジェクト

1. プロジェクト名：20・21世紀アメリカ合衆国におけるキルト標本資料収集

提 案 者：鈴木七美 先端人類科学研究部

事業の概要：アメリカ合衆国の歴史・文化の特徴に関する情報を集積・提示することを目的として、色・パターンおよび用途において明確なジャンルを形成してきたアーミッシュ・キルトを中心に、20・21世紀キルト標本資料を収集した。

2. プロジェクト名：インド・ラージャスターン州における社会変容と婚礼

提 案 者：三尾 稔 研究戦略センター

事業の概要：インド・ラージャスターン州南東部メーワール地方の主要都市ウダイプルにおいて、2011年3月に举行されたヒンドゥー教徒の婚礼の様態を、当事者や婚礼の挙行に関わる関係者のインタビューを交えて取材した。

3. プロジェクト名：マルチメディア・コンテンツ「中国雲南省ペー族の儀礼と生活の民族誌」の製作と関連短編ビデオトーク番組の製作

提 案 者：横山廣子 民族社会研究部

事業の概要：中国雲南省のペー族に関するマルチメディア・コンテンツを製作する2ヵ年計画の2年目として、大理市において春節時期の年中行事、冠婚葬祭、手工芸などを撮影した。編集は、マルチメディア・コンテンツの40本の映像番組および短編ビデオトーク番組「雲南省ペー族の葬式」を製作した。

4. プロジェクト名：『トゥバに魅せられた人々』に関する映像資料の編集

提 案 者：小長谷有紀 民族社会研究部

事業の概要：平成22年度に本館に客員教授として滞在したマリーナ・モングーシュ先生が、滞日中に撮影した映像資料を活用し、モンゴルと日本の学術交流史に関するビデオプログラムを作成した。

5. プロジェクト名：アメリカ先住民族の工芸品制作に関する映像資料編集計画

提 案 者：鈴木 紀 先端人類科学研究部

事業の概要：アメリカ合衆国の先住民族ホピ族の銀細工の制作工程および意匠の意味を解説するビデオ資料（仮題「ホピ族の銀細工」）1点、および同ズニ族の工芸品制作の振興とズニ博物館の役割に関するビデオ資料（仮題「ズニ族の工芸品振興と博物館の役割」）1点を製作した。制作した番組は、「アメリカ先住民ホピの銀細工づくり～銀板に重ね合わせる伝統～」(24分14秒)および「インディアン・ジュエリーの現在」(26分55秒)である。

6. プロジェクト名：徳之島の民俗芸能に関する映像取材
提 案 者：笹原亮二 研究戦略センター
事業の概要：鹿児島県徳之島各地の民俗芸能について、芸態や上演の様相、それが行われる年中行事の様相、演者たちの芸能に対する意識などについて取材を行った。今後は、この取材をもとに映像資料を作成する。
7. プロジェクト名：復元製作したチャンメラの購入、及び記録の作成
提 案 者：福岡正太 文化資源研究センター
事業の概要：熊本県八代市の中嶋町獅子舞保存会及び八代市立博物館の協力により、八代妙見祭で使われている楽器チャンメラ（チャルメラと同種の楽器）を復元製作し、デモンストレーション演奏の映像記録作成を行い、製作したチャンメラを購入して音楽展示「チャルメラ」セクションに展示した。
8. プロジェクト名：『インド・ラージャスターン州における女神祭礼の変容』に関する長・短編作品の製作
提 案 者：三尾 稔 研究戦略センター
事業の概要：2010年度に実施した映像音響資料収集プロジェクト「インド・ラージャスターン州における女神祭礼の変容」によって取材した映像音響データを編集し、長編1本、短編3本、及びマルチメディア・コンテンツ番組1本の映像作品を製作した。
9. プロジェクト名：フィリピン・ゴング音楽に関する映像番組（マラナオ語版、英語版）の編集
提 案 者：寺田吉孝 民族文化研究部
事業の概要：2008年度に制作したビデオテープ番組『クリンタン——フィリピン・ミンダナオ島のゴング音楽フィリピン・ミンダナオ島のゴング音楽』の英語版、マラナオ（現地）語版を、南フィリピン音楽研究の第一人者であるウソバイ・カダー博士と共同で制作した。カダー氏は、平成19年度に行った映像取材の企画・調整に関わった協力者であり、この取材に基づく番組制作（日本語版）のプロジェクトメンバーでもある。番組制作にあたっては、日本語版のテキスト部分を機械的に翻訳するのではなく、観客の言語環境や文化的背景を考慮して部分的な再編集をおこなった。
10. プロジェクト名：標本資料（「みけしの里 織と染の資料館」所蔵資料）の寄贈受入
提 案 者：吉本 忍 民族文化研究部
事業の概要：本事業では、伊豫邦男氏が収集され、香川県多度津町の「みけしの里 織と染の資料館」で1980年から2003年まで展示・収蔵されていた染織関係資料約2400点について、伊豫邦男氏の長女である伊豫道子氏から民博への寄贈の申し入れを受けたことにもとづき、そのすべてを受け入れた。

11. プロジェクト名：モンゴル展示場における移動式住居の置換
提 案 者：小長谷有紀 民族社会研究部
事 業 の 概 要：中央アジア・北アジア展示の新構築を念頭におきつつ、モンゴルの住居展示を置換するために、モンゴル国アルハンガイ県で使用されている住居を購入した。なお、本資料は、総合研究大学院大学の堀田あゆみ氏が住み込み、モノの来歴について聞き取り調査を実施した。
12. プロジェクト名：つくりものの収集
提 案 者：笹原亮二 研究戦略センター
事 業 の 概 要：日本展示場の新構築において展示するつくりもの関係資料を4点収集した。収集した資料は以下の通り。
- ・島根県出雲市平田町の平田一式飾「牛若丸と弁慶」
 - ・熊本県山都町の八朔大造り物「仁王像」
 - ・富山県高岡市福岡町の「福岡町つくりもんまつり野菜一式飾り蘭陵王像」
 - ・長崎県長崎市相川の相川月の輪太鼓の笠「月の輪」
13. プロジェクト名：メンドンの衣装・装束の収集
提 案 者：笹原亮二 研究戦略センター
事 業 の 概 要：日本展示場の新構築において展示するメンドン（鹿児島県三島村硫黄島）の仮面及び装束を収集した。
14. プロジェクト名：アイヌの魚皮製衣服の収集と映像取材
提 案 者：佐々木史郎 民族文化研究部
事 業 の 概 要：平成23年度には、前年度に処理され、用意されていた魚皮を用いて、縫製作業が始まり、1着が完成した。魚皮処理過程と衣装の縫製作業の様子は、映像取材班により映像化されている。平成24年度は魚皮処理技術の伝承過程を取材し、もう1着予備の衣装を作成する予定である。

資料2. 文化資源計画事業

1. プロジェクト名：標本資料「ボン教儀礼用具一式」の寄贈受入
提 案 者：三尾 稔 研究戦略センター
事 業 の 概 要：2009－2010年度に実施された企画展示『チベット ボン教の神がみ』の際、長野泰彦本館名誉教授が入手したボン教儀礼用具一式（53点）の寄贈を受け入れた。
2. プロジェクト名：標本資料（キリスト教再洗礼派関連衣服、生活用品）の寄贈受入
提 案 者：鈴木七美 先端人類科学研究部

事業の概要：アメリカ（北米・中南米）のキリスト教再洗礼派の人々（アーミッシュ、アーミッシュ・メノナイト、メノナイト等）の衣服や生活用品などには、かれらの信念、アイデンティティ、またモノづくりに対する考え方が表現されている。それらの特徴をとくに表現している衣服、生活用品30点について、必要なデータを整理したうえ、展示を目的として寄贈した。

3. プロジェクト名：京都大学学術調査隊関連写真資料のついでの追加寄贈受入

提案者：吉田憲司 文化資源研究センター

事業の概要：民博では、1955年から1967年までの間に京都大学を拠点に実施された一連の学術調査隊の撮影した写真・動画資料の整理とデータベース化を進めている。その整理の過程で1961年から66年にかけて実施された京都大学アフリカ類人猿学術調査および京都大学アフリカ学術調査に参加した富田浩三氏と和田正平氏（民博名誉教授）の撮影した写真資料が別途残されていることが判明した。今回の事業では、それらの写真資料計14,677コマの寄贈を京都大学学術調査隊関連写真資料の追加分として受け入れた。

4. プロジェクト名：特別展等の映像記録のマルチメディア・コンテンツ化

提案者：福岡正太 文化資源研究センター

事業の概要：民博で過去に開催された特別展や企画展等のうち、映像で記録されているものについて、マルチメディア・コンテンツにまとめ、ビデオテーク等で公開可能にすことを目指したが、ビデオテーク更新と重なり、さらに画面解像度等の変更が見込まれたため、ビデオテーク更新が終了するまでコンテンツの作成は見合わせることにした。

5. プロジェクト名：標本資料「アラビア書道作品」の寄贈受入

提案者：西尾哲夫 研究戦略センター

事業の概要：提案者が購入および寄贈を受けた資料（作品）を、本館展示への将来的な利用を目的として寄贈を行った。

6. プロジェクト名：「マダガスカル植物素材の民具（手ぼうき）」の寄贈受入

提案者：飯田 卓 文化資源研究センター

事業の概要：すでに完了した標本資料収集のプロジェクトで集めた同資料が、手違いによって他の資料から分かれて日本に到着し、他の資料の登録が終わってから再確認された。資料登録をあらためておこなうため、収集者からの寄贈というかたちをとった。このことによって、2010年度文化資源研究プロジェクト「マダガスカル東西両海岸部における生活財比較のための標本資料収集」で集まったコレクションを補完することができた。

7. プロジェクト名：標本資料（中国北方獅子舞用衣装）の寄贈受入

提案者：陳 天 璽 先端人類科学研究部

事業の概要：1970年代に神戸ポートピア博覧会で使用された中国北方獅子舞衣装及び仮面を一对、神戸華僑総会舞獅団より寄贈を受けた。

8. プロジェクト名：標本資料「京都大学学術調査隊民族資料」の寄贈受入

提案者：小長谷有紀 民族社会研究部

事業の概要：梅棹忠夫のカラコラム・ヒンズークシ学術調査隊など、京都大学がおこなった調査での収集品のうち、民博でのウメサオタダオ展で展示に用いた資料を含めて受け入れをおこなった。

9. プロジェクト名：標本資料「祭壇模型の複製（北海道アイヌ）」の寄贈受入

提案者：齋藤玲子 民族文化研究部

事業の概要：2011年秋季特別展「千島・樺太・北海道 アイヌの暮らし——ドイツコレクションを中心に——」に出品するため、民博所蔵の北海道アイヌの祭壇模型（K0002278）を複製し、展示終了後に製作者から寄贈の申請があったので、受入をおこなった。なお、本複製資料は、2011年7月から調査と製作を開始し、9月に完成した。製作者は（財）アイヌ文化振興・研究推進機構の「アイヌ文化継承者育成事業」の研修生5名と、北海道大学アイヌ・先住民研究センター准教授の北原次郎太氏で、北原氏は指導もおこなった。そのほか、材料の準備から製作・組み立てに至るまでの過程を記録した映像もある。

10. プロジェクト名：標本資料「メキシコのレタブロ（絵画）」の寄贈受入

提案者：八杉佳穂 民族文化研究部

事業の概要：喜多寛夫氏からメキシコの絵馬（レタブロ）の寄贈を希望する書と現物が送られてきた。館蔵品を補う資料であるので寄贈資料として受け入れた。

11. プロジェクト名：標本資料「カレンダー資料」の寄贈受入

提案者：中牧弘允 民族文化研究部

事業の概要：提案者がこれまで研究資料として収集してきた480点のカレンダー資料について、研究情報とともに寄贈した。

12. プロジェクト名：「朝鮮半島の文化」に関する映像資料の開発と収集：韓国国立民俗博物館との交流事業

提案者：朝倉敏夫 文化資源研究センター

事業の概要：3年計画の2年次として、本館「朝鮮半島の文化」に関する映像資料収集の新たなシステムを構築するため、韓国国立民俗博物館との交流協定に基づき協議を行い、映像人類学を専攻する大学・大学院生に研修を受けさせて作品を制作した。

13. プロジェクト名：標本・映像資料の寄贈受入 旧民族学博物館所蔵資料の調査と整理・登録

提 案 者：近藤雅樹 民族文化研究部

事業の概要：すでに登録済みの標本資料と旧民族学博物館所蔵資料収蔵台帳との照合・点検をおこない、エクセルに入力してデータベースの修正に着手する準備を終えた。そして、未登録資料の点検に着手した。これまでの調査で、未登録資料は10,000点程度に達しており、今後はこれらの資料と旧民族学博物館所蔵資料収蔵台帳との照合をおこない、可能な限りコレクションの全容を復元する計画である。

14. プロジェクト名：標本資料データベースクリーニングのための支援ツールの開発とデータベース公開

提 案 者：山本泰則 文化資源研究センター

事業の概要：民博が所蔵する標本資料に関する基本情報および学術研究情報の公開を効率よく進めるために、作業支援ツールの開発・刷新を行った。また、作成したツールを実際のデータ作成とクリーニング作業の場面で適用し、データベースの公開を実施した。

15. プロジェクト名：日本統治時代後半期における台湾の映像記録ならびに当該地収集資料の寄贈受入

提 案 者：野林厚志 研究戦略センター

事業の概要：日本統治時代後半期の1935～1940年に台湾の台南を中心に記録された写真映像ならびに当該地域で収集された標本資料を寄贈受け入れした。

資料管理分野

資料1. 文化資源プロジェクト（機関）

プロジェクト名：有形文化資源の保存・管理システム構築

有形文化資源の保存対策立案では、化学薬剤を用いない殺虫処理法の条件整備と実用化を進めるため、既存燻蒸庫の再気密試験・プログラム改良後の運転確認とともに、新たに可搬型窒素発生装置による低酸素濃度処理の基礎実験を行った。資料管理のための方法論策定では、博物館環境調査を計画的に実施し、調査時ごとの分析のみならず、長期的視点のもと総合的に分析を進めている。収蔵資料の保管・収納方法の改善は、引き続き段階的に取り組んでいる。

今後の展開の可能性

民博では研究の進展に伴い、毎年、各種の学術資料を集積している。これら膨大な資料の適切な管理は、民博の研究活動の基盤となる。民博所蔵資料の総合的保存管理システムの構築をめざす文化資源プロジェクト「有形文化資源の保存・管理システム構築」は、館として総合的かつ長期的視点のもとで継続的に進めるプロジェクトとして位置づけられるものであり、今後とも、適時、計画を見直しながら戦略的に進めていく。なお、本プロジェクトで得た成果は、民博のみならず、他の施設でも応用可能なものがふくまれており、その意味でも、今度ともさらなる研究開発を必要とする。

課 題

プロジェクトで得られた知見や成果は、情報管理施設・情報企画課の業務に反映させることで、プロジェクトの研究的側面と情報企画課における日常的実践が乖離せずには有機的に繋がる関係になっている。そのためには研究者のみならず、膨大なデータの一次分析を行い、研究と業務との連携に携わる人材が不可欠であるが、この役割は外部委託に頼っているのが現状である。また、本プロジェクトは総合的・長期的視点で進めるものであるが、現場の仕事に携わる人びとの多くが3年契約の職員であるのに加え、経験者が定年を迎えており、経験や知識の伝承は、緊急の課題となっている。

今後、より長期的な視点のもと、館内そして外部委託の資料管理業務の実施・協力体制づくりと役割分担を明確にしていく必要がある

情報化分野

資料1. 文化資源プロジェクト

1. プロジェクト名：「みんぱく所蔵北アメリカ先住民版画データベースの館内公開」

提 案 者：岸上伸啓 先端人類科学研究部

事業の概要：2009年度秋春季みんぱく特別展「自然のこえ 命のかたち－カナダ先住民の生み出す美」で公開した本館所蔵のカナダ・イヌイットと北アメリカ北西海岸先住民の版画約160点に関して、画像、基本情報、解説からなるデータベースを館内公開した。

2. プロジェクト名：資料整理・情報化「三次元CGを利用した民族建築デジタルアーカイブの構築」

提 案 者：佐藤浩司 民族社会研究部

事業の概要：民族建築デジタルアーカイブは、世界の民族建築（地域社会で完成されたいわゆる伝統的な住宅様式のこと）を記録し、その情報を三次元CGを利用して図像化、インターネット上に公開してゆこうというプロジェクトであり、一昨年（昨年は実施せず）の基礎研究に続いてオーストロネシア語族（インドネシア、ベトナム）の民族建築の三次元CG化をおこなった。

3. プロジェクト名：世界の布文化データベース（アジア）の構築

提 案 者：久保正敏 文化資源研究センター

事業の概要：民博に収蔵されている身装（身体と装い）関係資料のうち、成形されていない布地標本（例：サリー、腰布）の素材、文様デザイン、染織技法等を中心に、フィールドで得られた写真と連動しながら、世界の地域毎にデータベース化を行った。

4. プロジェクト名：旧文部省史料館資料のうち「西北ネパール学術調査隊」写真資料の整理と著作権処理、写真データベース公開

提 案 者：久保正敏 文化資源研究センター

事業の概要：旧文部省史料館所蔵で民博に移管された写真資料（台紙に貼り付けたモノクロ・プリント）7000点弱には、1958年に行われた「西北ネパール学術調査隊」写真資料（撮影者は、中尾佐助、宮本馨太郎、川喜田二郎）が含まれており、これらについては、整理と著作権処理が未処理であった。これらの処理を行い、写真データベースの公開を目指した。

5. プロジェクト名：梅棹忠夫コレクション写真資料のデータベースの作成

提 案 者：吉田憲司 文化資源研究センター

事業の概要：梅棹忠夫・民博初代館長が過去の調査研究活動の過程で世界各地で撮影した写真資料は、日本の文化人類学・民族学の歴史を物語る貴重な資料である。本プロジェクトは、民博が寄贈を受けた同氏写真資料の内、デジタル化（35,425コマ）をした画像データを、これまでに蓄積したテキストデータと組み合わせ、データベースを作成した。

6. プロジェクト名：京都大学学術調査隊関連資料の整理とデータベース作成

提案者：吉田憲司 文化資源研究センター

事業の概要：京都大学を拠点として組織された学術調査隊による記録写真のうち、京都大学アフリカ類人猿学術調査隊、京都大学アフリカ学術調査隊の写真資料11,663点について、各撮影者または、著作権継承者との間で著作権全面譲渡の覚書の締結処理を進めたうえ、民博のデータベース検索システムにより館内公開した。

7. プロジェクト名：音楽・芸能映像データベースのデータ追加

提案者：福岡正太 文化資源研究センター

事業の概要：すでに公開している「音楽・芸能の映像データベース」について、楽器の分類と撮影地の表示方法を見なおし、よりわかりやすい検索が行えるようにデータを整形した。また、撮影地の緯度経度情報を再点検・修正した。

資料2. 2011年度に公開したデータベース

1. カナダ先住民版画データベース

民博が所蔵する代表的なカナダ先住民版画の基本情報と解説（画像付き）。特別展「自然のこえ 命のかたち ― カナダ先住民の生み出す美」（2009年）の展示資料を中心に収録。158件。2011年12月館内限定公開。

2. 音楽・芸能の映像データベース

民博が世界各地で取材したビデオ映像から、音楽演奏や芸能に関係する部分を、1曲または1テーマごとに抽出した動画データベース。849件。2011年12月ウェブを通して公開。ただし、映像は館内限定公開。

3. 西北ネパール及びマナスル写真データベース

「西北ネパール学術探検隊」（1958年～1959年）が撮影した写真の情報。一部に「日本山岳会第一次マナスル登山隊」（1953年）科学班（推定）の写真を含む。民博に移管された旧文部省史料館資料の一部。620件。2011年11月館内限定公開。

4. 京都大学学術調査隊写真コレクションデータベース

「京都大学アフリカ学術調査隊」(1961年～1967年)が撮影した写真の情報11,663件。2011年11月館内限定公開。

5. 梅棹忠夫写真コレクションデータベース

民博初代館長の梅棹忠夫氏が、世界各地における調査研究活動の過程で撮影した写真の情報35,420件。2012年1月館内限定公開。

6. 日本昔話資料(稲田浩二コレクション)データベース

稲田浩二氏(当時京都女子大学教授)らのグループが、1967年から1978年にかけて日本各地29道府県で現地録音取材した日本昔話資料(446本のテープ・約190時間)の情報(音声付き)3,696件。2012年1月ウェブを通して公開。ただし、音声は館内限定公開。

資料3. 編集した研究用映像資料(文化資源プロジェクト)

1. プロジェクト名:「インド・ラージャスターン州における女神祭礼の多様性と変容」に関する長・短編作品の製作

番組タイトル:ウダイプルの女神祭礼

担当教員:三尾 稔 研究戦略センター

2. プロジェクト名:『トゥバに魅せられた人々』に関する映像資料の編集

番組タイトル:トゥバに魅せられた人々

担当教員:小長谷有紀 民族社会研究部

3. プロジェクト名:被災した民俗資料の保存修復方法の研究(H22)

番組タイトル:石川県穴水町指定「明泉寺台燈籠」修復の記録

担当教員:日高真吾 文化資源研究センター

4. プロジェクト名:被災した民俗資料の保存修復方法の研究(H22)

番組タイトル:石川県穴水町指定「明泉寺台燈籠」火袋の製作

担当教員:日高真吾 文化資源研究センター

資料4. 編集したビデオテープ短編番組とマルチメディア・コンテンツ (文化資源プロジェクト)

1. プロジェクト名:「インド・ラージャスターン州における女神祭礼の多様性と変容」に関する

る長・短編作品の製作

番組タイトル：バスニ・カラン村の領主の暮らし

担当教員：三尾 稔 研究戦略センター

ビデオテーク番組

2. プロジェクト名：「インド・ラージャスターン州における女神祭礼の多様性と変容」に関する

る長・短編作品の製作

番組タイトル：バスニ・カラン村の女神祭礼

担当教員：三尾 稔 研究戦略センター

ビデオテーク番組

3. プロジェクト名：「インド・ラージャスターン州における女神祭礼の多様性と変容」に関する

る長・短編作品の製作

番組タイトル：ラージャスターン戦士の霊 サガスバウジー

担当教員：三尾 稔 研究戦略センター

ビデオテーク番組

4. プロジェクト名：「インド・ラージャスターン州における女神祭礼の多様性と変容」に関する

る長・短編作品の製作

番組タイトル：ラージャスターン州メーワール地方の暮らしと信仰

担当教員：三尾 稔 研究戦略センター

マルチメディア番組

5. プロジェクト名：『トゥバに魅せられた人々』に関する映像資料の編集

番組タイトル：誰も知らなかった国トゥバ；研究者はなぜトゥバへ行ったのか

担当教員：小長谷有紀 民族社会研究部

ビデオテーク番組

6. プロジェクト名：アメリカ先住民族の工芸品制作に関する映像資料編集計画

番組タイトル：アメリカ先住民ホピの銀細工づくり

担当教員：伊藤敦規 文化資源研究センター

ビデオテーク番組

7. プロジェクト名：アメリカ先住民族の工芸品制作に関する映像資料編集計画

番組タイトル：インディアン・ジュエリーの現在

担当教員：伊藤敦規 文化資源研究センター

ビデオテーク番組

8. プロジェクト名：フィリピンのゴング音楽に関する映像番組（マラナオ語版、英語版）の編集

番組タイトル：kakoolintang o manga merenao

担 当 教 員：寺田吉孝 民族文化研究部
ビデオテーク番組

9. プロジェクト名：フィリピンのゴング音楽に関する映像番組（マラナオ語版、英語版）の編集
番組タイトル：kolintang

担 当 教 員：寺田吉孝 民族文化研究部
ビデオテーク番組

10. プロジェクト名：マルチメディア・コンテンツ「中国雲南省ペー族の儀礼と生活の民族誌」
の製作と関連短編ビデオテーク番組の製作

番組タイトル：雲南省ペー族の葬式

担 当 教 員：横山廣子 民族社会研究部
ビデオテーク番組

11. プロジェクト名：マルチメディア・コンテンツ「中国雲南省ペー族の儀礼と生活の民族誌」
の製作と関連短編ビデオテーク番組の製作

番組タイトル：中国雲南省のくらしと儀礼

担 当 教 員：横山廣子 民族社会研究部
マルチメディア番組

資料5. 2011年度に公開したビデオテーク短編番組、マルチメディア・コンテンツ、 研究用映像資料

1. 「みんぱく：ようこそ地球シアターみんぱくへ」

制作監修：佐藤浩司 民族社会研究部

博物館機能をもった文化人類学・民族学の研究所、みんぱく。様々な活動を行うみんぱくのいまを紹介。（番組番号5009）

2. 「海を渡った和太鼓」

制作監修：寺田吉孝 民族文化研究部

戦後の日本で生まれた和太鼓音楽は、1960年代に北米に紹介され、アジア系の人々によって偏見と闘うための手段として演奏されている。（番組番号1699）

3. 「キムジャンをする日：韓国人はキムチを漬ける」

制 作：国立民族学博物館，韓国国立民俗博物館

韓国では一年分のキムチを冬に漬ける。都会と田舎の漬け方を比較する。（番組番号2800）

4. 「南部市場の一日：韓国 全羅北道全州市の在来市場」

監 修：国立民族学博物館, 韓国国立民俗博物館

韓国全州市の在来市場「南部市場」。そこに集まる人々の日常と市場の現状を追った。(番組番号2801)

5. 「会長になるなら：延世大学校 第48代総学生会選挙の話」

制 作：国立民族学博物館, 韓国国立民俗博物館

総学生会長選挙を通して情熱的な選挙運動と大学キャンパス生活を見ることができる。(番組番号2802)

6. 「ボン教のツキを呼ぶ儀礼：ヤングー」

制作監修：長野泰彦 国立民族学博物館 名誉教授

カトマンドウのチベット・ボン教寺院で行われたツキを呼ぶ儀礼「ヤングー」。その全プロセスを紹介する。(番組番号2803)

7. 「Taiko in North America」

制作監修：TERADA Yoshitaka Department of Cultural Research

Taiko, a style of drumming developed in post-war Japan, has been played by Asian Americans to challenge their stereotypical images in North America. (番組番号3699)

8. 「김장하는 날：한국인은 김치를 담근다」

制作監修：국립민족학박물관, 한국국립민속박물관

일년치 김치를 겨울에 담는 김장. 그 방법을 도시와 시골로 비교해본다.
(番組番号8004)

9. 「전라북도 전주 남부시장의 하루」

制作監修：국립민족학박물관, 한국국립민속박물관

한국 전주시의 재래시장 남부시장에 모이는 사람들의 일상과 시장의 현황을 살펴본다.
(番組番号8005)

10. 「회장이 되려면? : 연세대학교 제48대 총학생회 선거 이야기」

制作監修：국립민족학박물관, 한국국립민속박물관

총학생회장 선거를 통해 열정적인 선거운동과 대학캠퍼스 생활을 볼수 있다.
(番組番号8006)

11. 「インドネシア・スンバ島の家」

制作監修：佐藤浩司 民族社会研究部

巨大なとんがり屋根には祖先の霊がやどるといふ。村落生活の焦点にある家づくりをとおして、スンバ島の社会と文化を紹介する。(マルチメディア番組、番組番号6044)

12. 「ベリーダンス：広がるアラブの大衆芸能」

制作監修：西尾哲夫 研究戦略センター

中東発祥のベリーダンス。今や世界各国で習う人が増え、グローバル化が始まっている。(研究用映像資料、番組番号7182)

13. 「Angry Drummers: A Taiko Group from Osaka, Japan」

制作監修：TERADA Yoshitaka Department of Cultural Resarch

An Osaka-based group plays drums to raise consciousness about discrimination against Buraku and other minority communities in Japan. (研究用映像資料、番組番号7217)

社会連携分野

資料1. 文化資源プロジェクト

1. 博学連携教員ワークショップ2011 in みんなく

プロジェクト・リーダー：朝倉敏夫（文化資源研究センター）

2011年8月5日(金)に、博学連携教員研修ワークショップ2011 in みんなく「学校と博物館でつくる国際理解教育－新しい民博展示を活用する－」を民博で開催した。参加者は主に小学校等の教育機関教諭、計158名（参加者109名〔昨年度79名〕、スタッフ49名〔館内20名、館外29名〕）であった。なお、大阪府教育センターの初任者研修の教員も19名参加した。

2. カムイノミ及び重要無形民俗文化財「アイヌ古式舞踊」演舞の実施

プロジェクト・リーダー：佐々木史郎（民族文化研究部）

2011年11月25日(金) 本館が所蔵するアイヌの標本資料に対して、安全な保管と後世への確実な伝承を目的に祈りの儀式（カムイノミ）を行った。併せて国の重要無形民俗文化財であるアイヌ古式舞踊の演舞を、一般公開で実施した。

3. 「表現で出会う・表現でつながる」実験的表現ワークショップ・パフォーマンス

プロジェクト・リーダー：西 洋子（先端人類科学研究部、特別客員教員）

これまで本プロジェクトが開発した表現ワークショップの方法論および過去2回の民博でのワークショップを通じて得た成果を、幼稚園・小・中学校等の学校教育や、保育所、児童館、子育て支援センター、福祉施設、地域でのレクワーク等の社会教育現場に還元する手法の開発を目的として、①指導者ワークショップの手法の開発と指導者を対象とする実験的なワークショップの実施、②小学校等での授業実践のための授業内容の作成と実際の授業実践 ③民博でのモノや人との出会いから生まれた身体表現作品を館外のホールで上演し、博物館と社会とをつなぐ新しい手法の開発と可能性の検討を進めた。

①学校および社会教育現場への成果発信を目的とする指導者ワークショップのための方法論開発と実施

- ・2011年8月23日：第35回東京都幼稚園教育研究会の夏季研修会において、「自分らしい身体表現を楽しもう」の一部として、幼稚園教諭100名を対象とするワークショップを実施。

②小学校等での授業実践のための授業内容の作成と実際の授業実践

- ・2011年10月13・14日 金沢大学附属小学校2年生、5年生 70名
「思いと出会う・願いでつながる～インド刺繍～」の授業実践
- ・2011年11月21・22日 石川県立ろう学校 低学年および高学年クラス25名
「影で出会う・影でつながる～ワヤン・クリ～」の授業実践

③みんなくでのモノや人との出会いから生まれた身体表現作品の一般ホールでの公開パフォーマンスの手法検討と実施

- 2011年9月19日、練馬文化センター大ホールでの「みんなのダンスフィールド第10回ライブパフォーマンス」において、民博での表現ワークショップで創られたインド刺繍とワヤン・クリを題材とする2作品を上演し、あわせて民博でのワークショップの様子を紹介・解説した（観客約500名）。

資料2. 文化資源計画事業

1. 学習キット「みんぱく」の新規および改訂版の制作

プロジェクト・リーダー：朝倉敏夫（文化資源研究センター）

「みんぱく」の中には損傷の激しいものや時代にあわなくなっているものがあるため、館の事業として体系的に推進していかなければならない。その推進方式について検討し事業の推進を段階的に進めるために、新規版と改訂版の「みんぱく」の制作を実施した。

かねてよりリクエストの多かった「モンゴル－草原のかおりをたのしむ」を2パック制作し、2012年4月より運用を開始した。「イスラム教とアラブ世界のくらし」の改訂版を制作したが、資料の調達が2012年2月になったため、運用開始が次年度に持ち越しとなった。

2. ワークショップの実施ならびにワークシートの運用

プロジェクト・リーダー：朝倉敏夫（文化資源研究センター）

民博で行なわれている各種研究活動ならびに展示の内容を、来館者を中心とした一般利用者に、より効果的、効率的に理解してもらうと同時に、一般利用者からの様々な意見や情報を民博内にフィードバックさせることを目的としたワークショップならびにワークシートの開発を計画的に実施した。

3. ボランティア活動支援

プロジェクト・リーダー：朝倉敏夫（文化資源研究センター）

国立民族学博物館におけるボランティア活動者の受け入れ要綱に基づき、登録したボランティア団体であるMMP（みんぱくミュージアムパートナーズ）及び地球はなし村の活動支援を行なった。以下のボランティア活動は、これらの団体が民博を会場として行なったものである。

● MMPによる企画・実施

- あそびの広場2011 「いっしょにあそぼ！」

2011年5月4日(木)

- 夏休みものづくりワークショップ「帆つきアウトリガーカヌーを作って帆走させよう！」

2011年8月27日(土)

- 特別展「千島・樺太・北海道 アイヌのくらし——ドイツコレクションを中心に——」関連ワークショップ

折って切って広がるアイヌ文化の世界 ワークショップ「きり絵でアイヌ文様！」

2011年11月3日(木)、11月20日(日)

- 特別展「千島・樺太・北海道 アイヌのくらし——ドイツコレクションを中心に——」関連

ワークショップ

折り紙教室「千島、樺太・北海道の動物」

2011年11月5日

- ・年末年始展示イベント「たつ」関連ワークショップ

おりがみで遊ぼう！ 干支シリーズ『辰』

2012年1月9日(月)

- ・「たっぷりアメリカ」を視覚しょうがい者へ案内

2012年3月3日(土)、11日(日)

- 地球おはなし村 おはなし畑による企画・実施

みんなくおはなし会

2011年5月26日(金)、7月9日(土)、10月27日(土)、2012年1月29日(土)、3月22日(土)

- 地球おはなし村 音楽畑による企画・実施

音楽の祭日2011 in みんなく

2011年6月26日(日)

4. 学習キット「みんなく」運用の実績

学習キット「みんなく」は平成23年度の運用を無事に終えることが出来た。

23年度は、121の学校や社会教育施設に、のべ208回の貸出を行った。

運用を通じて利用者から得た要望や意見を今後の開発・運用に可能な限り反映させていく。

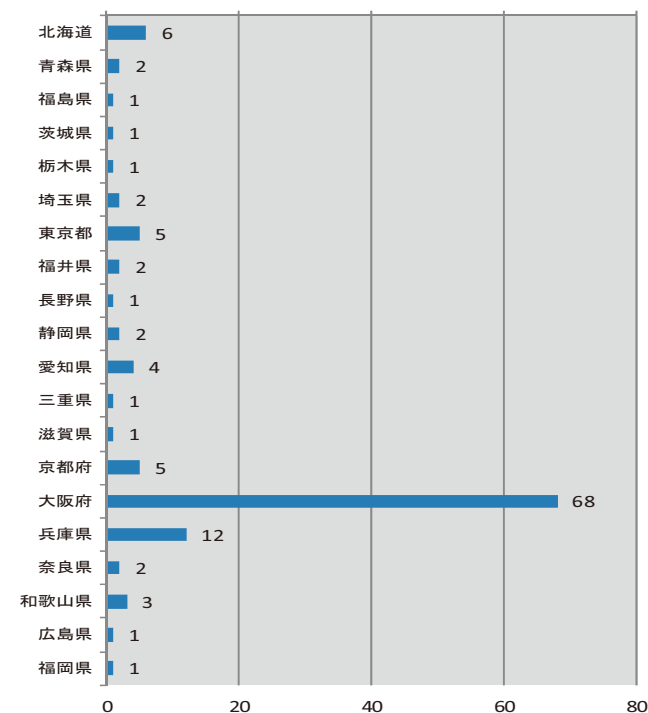
1) 運用について

1) 運用パック		
名 称	担当教員	個数
極北を生きる	岸上 伸啓	2
アンデスの玉手箱	關 雄二	2
ジャワ文化をまとう	福岡 正太	1
イスラム教とアラブ世界のくらし	西尾 哲夫	1
ブータンの学校生活	栗田 靖之	1
ソウルスタイル	朝倉 敏夫	4
	佐藤 浩司	
インドのサリーとクルター	杉本 良男	2
ブリコラージュ	佐藤 浩司	3
アラビアンナイトの世界	西尾 哲夫	2
アイヌ文化にであう	佐々木利和	1
アイヌ文化にであう 2	佐々木利和	1
	計	20

2) 運用概況		
●貸出対象	小中高等学校 社会教育施設等	
●貸出期間	1回につき2週間以内	
●使用料	輸送費のみ利用者負担	
◆貸出回数	208	前年度実績 213
◆貸出機関	121	128
	小学校	51
	中学校	21
	高等学校	14
	大学	9
	その他*	37
◆利用人数	10,112 (サンプル 87件中)	8538 (サンプル 88件中)

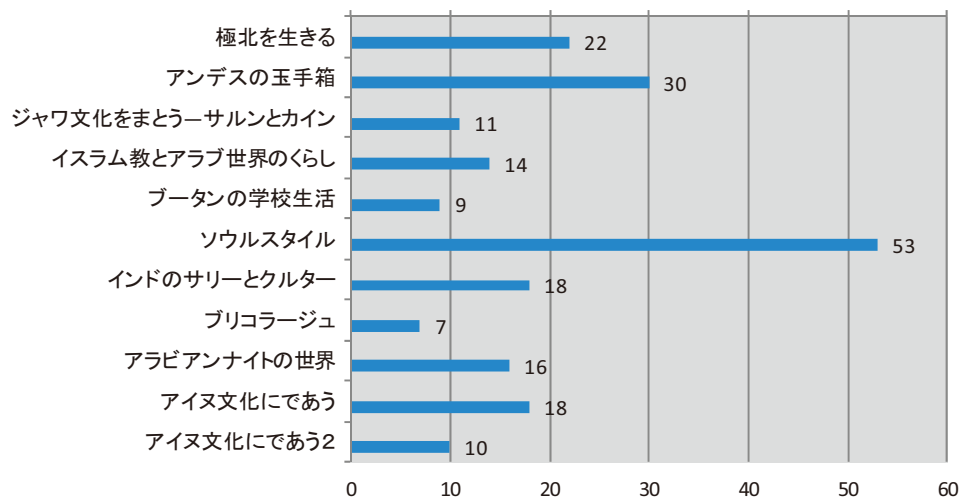
* 7)を参照ください。

3) 都道府県別利用状況（貸出機関単位：合計121件）



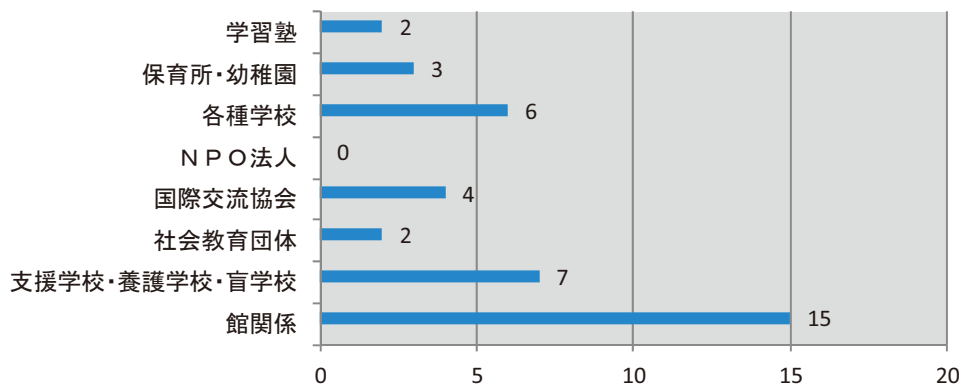
- 昨年にひきつづき、大阪府内の利用が56%（昨年55%）と多い。
- 北海道への貸出が増加している。（昨年3件）
- 121機関中69機関（57%）がリピーター

4) パック別利用件数（サンプル：208）



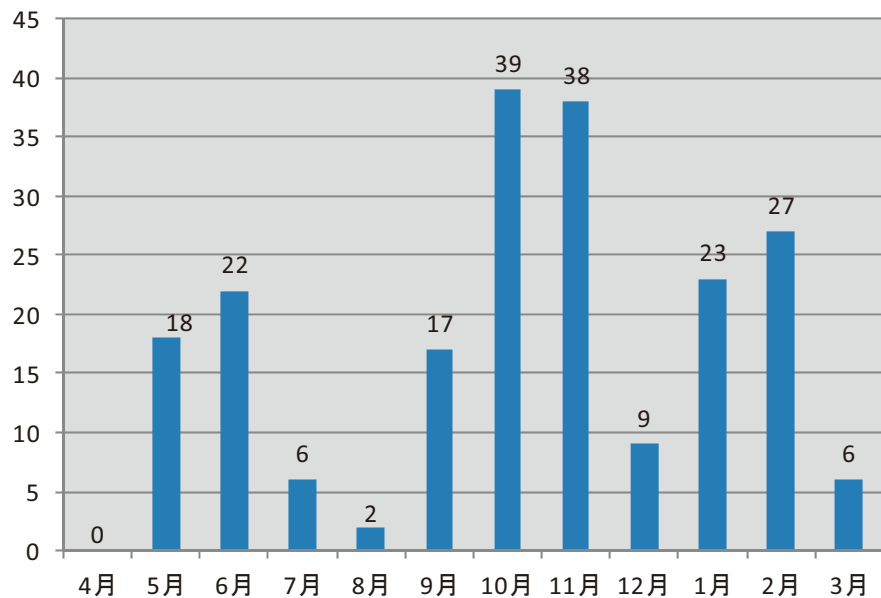
- 昨年度より貸出件数が減少した。理由：貸出直前のキャンセルが1月に9件、2月に5件あった。（どちらも1機関）
- 例年どおり4パックでの運用を行っている「ソウルスタイル」の利用件数が最も多い。
- 「アイヌ文化にであう2」の貸出を開始し、貸出件数も「アイヌ文化にであう」と合わせて順調に伸びてきている。

5) 貸出機関における「その他」の機関内訳 (サンプル: 37)



● 館関係が多いのは MMP や千里文化財団が月別で何度も利用しているため。

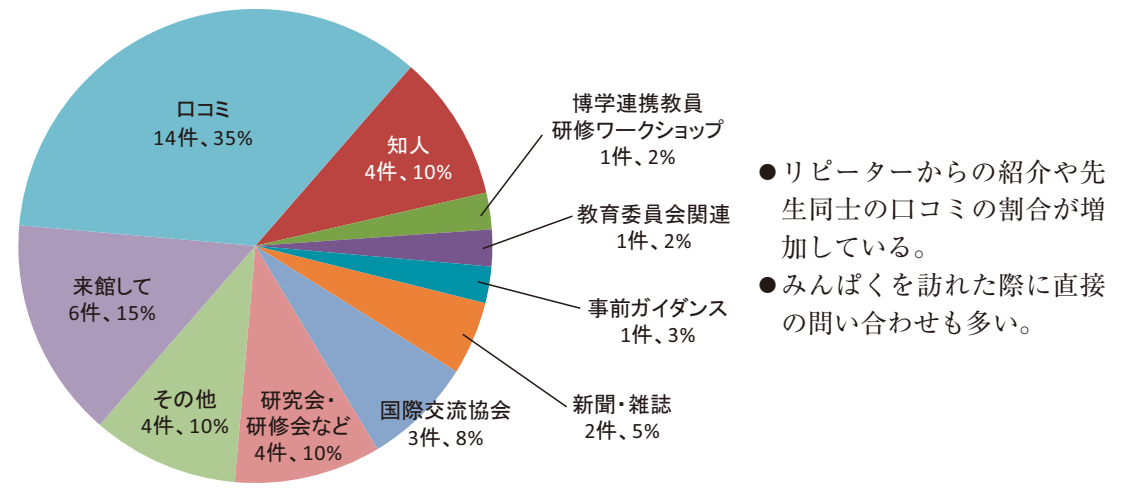
6) 月別貸出件数



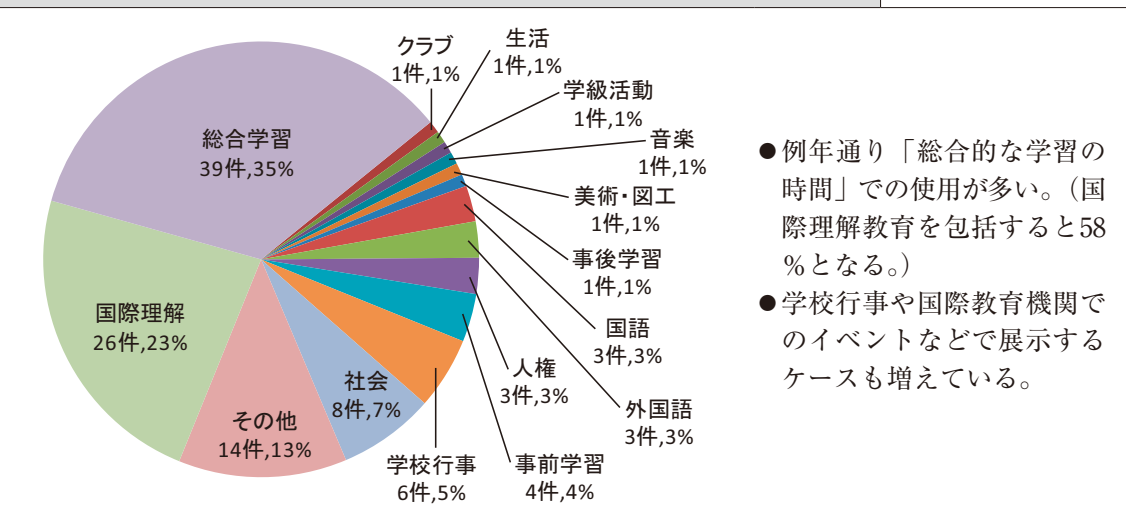
※ 8月と3月に衣装のクリーニング、3月にCO₂処理を

- 例年通り、夏休みや春休みなど学校行事と重なる時期は利用件数が少ない。
- 2学期は学芸会や各種イベントが多いため10月と11月の利用件数が伸びた。
- 1月、2月は総合学習のまとめ学習などの機会が多い。

7) 「みんぱく」の認知媒体 (サンプル: 87件、複数回答あり)



8) 使用目的 小学校 (サンプル: 112件、複数回答あり)



9) 運用コスト

● 衣装クリーニング代 ※	80,000 円
● 資料補充・修理費	168,074 円
計	568,904 円

※一部執行予定を含む

● 運用が10年目に入り修理・補充の機会が増え、パックの数も増加した。そのため予算額を前年度より増額している。今年度みんぱくの運用・保守費としてかかった費用は568,904円であったが、おおよそ予算どおりとなった。

10) 新規もしくは改訂版制作中パック

- 「イスラム教とアラブ世界のくらし」改訂版制作中

2) みんなっく利用者からの要望

- 新しいパック・既存パックの複製制作
- 大きいサイズ・小さいサイズの衣装の追加
- 古い資料を新しいものに交換してほしい
- ムックリやアンデス管楽器などは他人と共用のため利用しにくい。(打楽器の増加希望)
- 着付の詳しい解説がほしい。(ブータンなど一部の衣装について)

3) 平成23年度の取り組み

- 11種類20パックすべてのCO₂処理(3月)および衣装165点のクリーニング(8月・3月)
- 団体見学の下見来館者に対する「みんなっく」の案内(春・秋に行われるガイダンスにおいて)
- 「モンゴルー草原のかおりをたのしむ」の制作(平成23年度文化資源計画事業)
- 「イスラム教とアラブ世界のくらし」改訂版の制作(平成23年度文化資源計画事業)
- ティーチャーズパックの整備(映像媒体の変更(VHS→DVD)・モノ情報カードのラミネート化など)

4) 来年度以降の取り組み

- 「みんなっく『韓国(仮題)』」の制作(文化資源プロジェクト)
- 改訂版「イスラム教とアラブ世界のくらし」の完成、運用および貸出の開始
- 団体見学の下見来館者に対する「みんなっく」の案内(春・秋に行われるガイダンスにおいて)
- 現行パックの映像資料、モノ情報カード、フィールドアルバムなどの整備
- 現行パックの資料の補充・ストックの確保
- 2006年以前に制作した9パックのモノ情報カードの資料写真の再撮影
- 「アイヌ文化にであう」「アイヌ文化にであう2」「モンゴル」のLet's みんなっく活用事例の追加

資料3. JICA との連携による博物館学集中コース

【概 況】

民博は、2004年度以降、独立行政法人国際協力機構(JICA)から全面的委託を受けて、滋賀県立琵琶湖博物館とともに、JICA 集団研修「博物館学集中コース」を企画・運営している。

2009年度からは、JICA 集団研修全体の枠組みが大きく変更され、3年間を一区切りとして、その間は研修員受入れ割り当て国を変更しない、という基本原則が定められた。日本の国際協力事業全体を見直す動きの中で、同一国に継続的な協力を行ってその結果が現地に確実に還元される仕組みを作り、それを3年ごとに確認して当該コースを継続すべきかを外部評価の判断にゆだねる、というJICAの方針から、このような枠組みの変更が行われたものである。しかし、民博としては、この枠組みの変更に際し、博物館関係者を3年間にわたり継続して派遣するのが困難な国も多いことを勘案して「大きな需要を持ちながらも博物館人材の少ない国を切り捨てる結果に陥らないこと」を要望してきた。その結果、2010年度以降は、JICA が各国に向けて要望調

査を行なう際に、当初の割り当て国以外であっても民博から要望のあった国に対しては、本コースに関する要望調査資料を送付することとなった。

2011年度は、3月11日に発生した東日本大震災の影響を受けて、6月15日の来日、オリエンテーション、健康診断、日本語研修の後、共通プログラムと個別研修プログラムを含めた本コースが6月20日から9月9日にかけて実施された。

コースの参加資格は、原則として25歳以上45歳以下、大学卒業もしくは同等の学力を持ち、収集、ドキュメンテーション、保存、展示、教育などの博物館活動での実務経験を3年以上有し、研修内容を十分に理解できる英語能力を備えている者である。これらの条件を満たした、以下の6カ国から計10名が参加した。

アルメニア	Ms. Zhanna Manukyan ジャンナ マニュキヤン	マルティロス・サリアン記念博物館
ヨルダン	Mr. Ibrahim Abdel Karim Ali Al Masri イブラヒム アブデル カリム アリ アル マスリ	サルト歴史資料館
ヨルダン	Ms. Najd Sami Sweidan ナジッド サミ スウェダン	ヨルダン博物館
モーリタニア	Mr. Brahim Mahmoud Kane ブラヒム マフムード キャン	モーリタニア国立博物館
モンゴル	Ms. Narantuya Dalkhaa ナラントウヤ ダルハ	モンゴル文化遺産センター
モンゴル	Mr. Yalalt Gendenkhoo ヤラット ゲンデンフ	モンゴル現代美術館
モンゴル	Ms. Oyunkhishig Tsanjid オユンヒシク タンジッド	モンゴル国立博物館
スリランカ	Ms. Sanjeewani Upaka Widyaratne サンジワニ ウパカ ウィッディアラトナ	コロombo国立博物館
タイ	Ms. Nopparat Thepthepa ノパラ テプテパ	国立科学博物館
タイ	Ms. Duangjai Pichitnarongchai ドゥオンジャイ ピチナロンチャイ	文化賞美術局国立博物館室

【成果概要】

共通プログラム

共通プログラム（10週間）は、博物館活動全般を理解するための講義・実習（表参照）と研修旅行からなる。各講義には、各研修員の国や博物館の特徴、問題点などの紹介と討論の時間を含めるなど、講師や各研修員との間での相互交流・情報共有を図るための工夫を加えている。

2011年度の研修旅行は、

奈良（7月7日～8日、財団法人元興寺文化財研究所、平城宮跡、東大寺、法隆寺）
直島・広島（7月13日～15日、ベネッセハウスミュージアム、広島平和記念資料館、世界文化遺産 宮島）

神戸（7月28日、阪神・淡路大震災記念 人と防災未来センター）

九州（8月2日～5日、長崎歴史文化博物館、平成新山ネイチャーセンター、雲仙岳災害記念館、福岡アジア美術館、九州国立博物館）

大阪（8月10日、大阪歴史博物館、大阪人権博物館 リバティおおさか）

の5回であった。週末などに自主的に見学した博物館等を含めると、研修員は日本での研修期間中に多くの施設を訪れたことになり、これを通じて日本の博物館事情や文化を理解してもらう素地ができたものと考えられる。

研修員には、自国の博物館事情等を紹介するカントリーレポート、自身の専門に関するスペシャリティレポート、研修期間の最後に帰国後の普及計画を発表するファイナルレポート、などの

発表の場が用意された。スペシャリティレポートは、自身の専門について関連する講義の中で報告するもので、自身の経験と問題点を、他の研修員及び日本側の関係者が学び、相互に議論する好機となった。また、2009年度から JICA 研修コースの枠組みが変更された目的が、研修員の帰国後に研修成果を母国において効果的に還元することにあったのに鑑み、ファイナルレポートは、帰国後の成果普及プログラム案を発表する場へと再設定された。各研修員は、制度的・予算的に実現可能な普及プログラム案の策定に取り組み、本コースの成果が母国に順次普及されることが期待できる内容であった。さらに、JICA は、研修終了から 1 年以内にその成果や進捗状況を検証することとなっている。

2011年7月30日、民博において、カントリーレポートを展開させた公開フォーラム「世界の博物館2011」が開催された。一般参加者26名と関係者35名、計61名の人が集い、普段なかなか知る機会のない、6カ国の博物館事情に関する報告を聞くことができた。この公開フォーラムはまた、終了後に開かれた懇親会とともに、研修員と一般の人びとや博物館関係者、学生が直接交流できる貴重な場となった。

表 共通プログラムの内容

項 目	詳 細
(1) 博物館学総論	日本での博物館制度
	博物館と文化表象
	博物館と観光
	世界の美術館
	メディアと博物館
	文化行政と文化財保護政策
	知的財産権
(2) 収集・保存	資料整理と利用
	情報の利用とそのための施設
	データベース
	映像記録（取材から番組制作まで）
	博物館における環境
	保存と修復1（民族誌資料と歴史資料）
	保存と修復2（考古資料）
	危機対策、保安、防災、防犯
	輸送と梱包
	映像資料の管理（マルチメディアを含む）
(3) 展 示	博物館の建築
	常設展示－設計
	常設展示－ディスプレイ
	企画展示－設計
	企画展示－ディスプレイ
	特別展示の企画
	近隣の博物館の見学
	モデル作成－目的と設計

(4) 教育と社会連携	教育活動
	市民サービス、利用者交流
	評価（来館者調査）
	博物館とバリアフリー
	歴史教育と博物館
	人権と博物館
	売店経営、商品開発
	文化遺産と開発

個別研修プログラム

後半に設定された3週間の個別研修プログラムでは、研修員は、週ごとに希望の研修を選択する。このプログラムは専門性が高く、多くの機関の協力も得ながら実施した。いずれのプログラムも研修員の満足度は高く、個別研修期間の延長を求める意見も聞かれた。

1 週目：Aは8月15日(月)～19日(金)、Bは8月16日(火)～20日(土)

- | | |
|--------------|---------------------|
| A 予防保存 | 園田直子（民博 文化資源研究センター） |
| B 地域歴史博物館の活動 | 藤原 学ほか（吹田市立博物館 ほか） |

2 週目：8月22日(月)～8月26日(金) Eは8月21日(日)～25日(木)

- | | |
|----------------|------------------------|
| C 写真撮影 | 田上仁志（民博 情報管理施設情報システム課） |
| E 博物館と地域コミュニティ | 楠岡 泰／中井克樹（滋賀県立琵琶湖博物館） |
| G 考古資料の発掘と保存管理 | 三好 玄／土屋みづほ（大阪府教育委員会） |

3 週目：8月29日(月)～9月2日(金)

- | | |
|------------|------------------------|
| C 写真撮影 | 田上仁志（民博 情報管理施設情報システム課） |
| D 資料の保存と修復 | 植田直見（財団法人 元興寺文化財研究所） |
| H 展示デザイン | 堀 孝（有限会社コモードデザイン） |

〔国際的なネットワーク〕

「博物館学集中コース」（2004～2011年度、8回実施）と、その前身であるJICA「博物館技術（収集・保存・展示）研修コース」（1994～2003年度、10回実施）の修了者は、JICA研修員160名、民博の外来研究員24名、あわせて184名に達した。民博にとって貴重な財産と言える海外博物館とのネットワークが、2011年度の研修によりさらに充実した。

なお、本コースのニュース・レターとして2011年10月に発行した下記の刊行物に、より詳細な記録が掲載されている。

Steering Committee for the Intensive Course on Museology, *Museum Co-operation 2011: Newsletter of the Intensive Course on Museology*, National Museum of Ethnology, Japan, 2010.

（林 勲男・前博物館学集中研修専門部会長）



音楽の祭日2011 in みんなぱく



6月26日(日) 10:15～16:45(開場10:00)

無料観覧日(本館展示場入館は16:30まで)

※自然文化園を通行される場合は入園料(大人250円、小・中学生70円)が必要です。
公園東口駅下車、日本庭園前ゲート右側の民博専用通路口からは無料で入館することができます。



主催：国立民族学博物館 主管：音楽の祭日日本事務局

6/26 (日)
開催

音楽の祭日 2011 in みんぱく

音楽の祭日とは

1982年にフランスで、夏至の日にみんなで音楽を楽しむ「音楽の祭典」がはじまりました。それは、今、世界各地に広がっています。日本でも、その趣旨に賛同する人びとの呼びかけで、2002年から「音楽の祭日」がスタートしました。音楽の祭日は夏至(6月22日)およびその前後の日で開催されますが、今回はみんぱくでは26日(日)に開催いたします。

*日本事務局 <http://www.mediatv.ne.jp/ongakunosaijitsu/>

プログラム

会場：特別展示館

10:15～10:30 開会式

10:30～10:55 **しのぶえサークル Kyô の輪**
岸和田だんじり囃子 笛星
しのぶのソロと合奏、だんじりこどもばやし。

10:55～11:20 **Samurai Celt mine**
アイルランド、ブルターニュ、ガリシア等ヨーロッパのケルト音楽をフルート、ホイッスル、フィドル、ウッドベース、カホン等で演奏。

11:20～11:45 **神戸インドネシア友の会**
「アングルン」隊
インドネシアの民族竹楽器アングルン(昨年、世界文化遺産に登録)の演奏。

11:45～12:10 **小江南曲社**
茶館などで日常的に演奏される、中国江南地方の民間音楽「江南絲竹」を演奏。「絲」は弦楽器、「竹」は管楽器を意味する管弦楽合奏。

12:10～12:35 **平澤 翔**
ベトナム製鼻笛の演奏。

12:35～12:45 休憩

12:45～13:10 **グルーボ福袋**
南アメリカ・アンデスのfolklore。

13:10～13:35 **ハラウフラ オ マカナアロハ**
ハワイの楽器、イプヘケ、イプ、ウリウリ、ウクレレ等を使い、歌詞の意味を踊りとともに表現。

13:35～14:00 **Pulse**
打弦楽器ダルシマーでのアイリッシュとクラシックの演奏。

14:00～14:25 **バンチャパリワール**
ネパールの民族楽器を使ったネパール音楽の演奏。

14:25～14:50 **THE ENGINES**

ギリシアの伝統的ダンス音楽「カラシラマス」や東欧ユダヤ人音楽のクレツマー等をアコーディオン、バイオリン等を使って演奏。

14:50～15:15 **choo-san(チューサン)**

アメリカの民族楽器バンジョーを使って、アメリカ民謡をベースに日本語の歌を唄う。

15:15～15:40 **加藤 敬徳**

八雲琴独奏。

15:40～16:05 **神戸中国雲南芸術交流団**

中国雲南省民族の歌とフルース(ヒョウタン型の笛)の演奏。

16:05～16:30 **神奈川馬匠と締組**

和太鼓を使った創作曲の演奏。

16:30～16:45 閉会式

会場：本館 1F エントランスホール

11:00～11:30 **地球おはなし村**

西アフリカの太鼓ジェンベを使った音楽。

11:30～12:00 **バシール・ピンタン**

インドネシア・西ジャワの竹の民族楽器アングロンのアンスンブル。

12:00～12:30 **SWEET HARMONY(スウィートハーモニー)**

日本古典文学の精神を神楽鈴、オカリナ、フルースハーモニカ、ギター等の楽器を伴奏に男女デュエットコーラスハーモニーで表現。

12:30～13:00 **スワ・ギタ・プルティウィ・ジャパン、**
チャンドラ・バスカラ、パドマ・サリ

バリ・ガムラン演奏と舞踊。

13:00～13:30 **ダルマ・ブダヤ**

ジャワ・ガムランの古典曲とオリジナル曲、創作曲他。

*出演者や演奏時間は変更場合があります。

*入退場合わせての時間です。

交通のご案内

*国立民族学博物館(みんぱく)は大阪・千里の万博記念公園内にあります。
「みんぱく」とは大学共同利用機関法人 人間文化研究機構 国立民族学博物館の愛称です。

●大阪モノレール

「万博記念公園駅」下車、徒歩約15分
(自然文化園を通行される場合は、入園料が必要となります。)
「公園東口駅」下車、徒歩約15分
(「公園東口駅」からは自然文化園を通行せずに来館できます。)

●バス

[近鉄バス] (阪大本部前行き) 阪急茨木市駅から約20分、J R茨木駅から約10分
「日本庭園前」下車、徒歩約15分
[阪急バス] (万博記念公園駅経由千里中央行き) 阪急茨木市駅から約20分、J R茨木駅から約10分
「自然文化園・日本庭園中央」下車、徒歩約5分

●タクシー

万博記念公園「日本庭園前駐車場」まで乗り入れることができます。下車、徒歩約5分

●自動車

駐車施設が無い「みんぱく」への車の乗り入れはできません。万博記念公園の駐車場(有料)をご利用ください。最寄り「日本庭園前駐車場」から徒歩約5分

*「日本庭園前駐車場」をご利用の方は、「日本庭園前ゲート」横にある国立民族学博物館専用通行口をお通りください。

お問い合わせ先

国立民族学博物館 情報企画課

〒565-8511 大阪府吹田市千里万博公園 10 番 1 号
電話：06-6878-8532 FAX：06-6878-8242
受付時間：平日午前9時00分～午後5時00分
(土・日・祝日は問い合わせの受付はできませんのでご了承ください。)
<http://www.minpaku.ac.jp/>

みんぱく
携帯
サイト



平成23年 7 月12日
「音楽の祭日2011」実行委員会

「音楽の祭日2011 in みんなく」報告書

平成22年 6 月26日(日)、国立民族学博物館で主催した「音楽の祭日2011 in みんなく」について下記のとおり報告します。

記

1. 日 時 平成22年 6 月26日(日) 無料観覧日 10：15～16：45
2. 実施場所 特別展示館および本館エントランスホール・南アジア展示・ヨーロッパ展示
3. 参加人数 約2080名
4. 出演者人数 175名（19グループ）
5. 民博側担当 教員 5 名、広報企画室 3 名、情報企画課 6 名、
機関研究員 2 名、研究部事務室等 2 名
6. アルバイト 総合研究大学院大学生
（6 月24日）会場設営：3 名（当日）運搬・搬入・会場撤収：3 名
7. 外部委託 (株)アーチェリープロダクション
（6 月25日）機材設営：4 名（当日）音響・照明調整：4 名
(株)西岡印刷所 チラシ印刷13000部
関西アテナ(株) チラシ封入作業
8. 費用 511千円
＜内 訳＞
アルバイト謝金 45千円
(株)アーチェリープロダクション 350千円
(株)西岡印刷所（印刷のみ） 100千円
関西アテナ(株) 16千円

9. 趣旨

「音楽の祭日」は、1982年にフランスで生まれた「音楽の祭典」を原型に、毎年、夏至の日々を中心に世界的に開催される行事で、わが国でも2002年から日本事務局が中心となって文化復興及び国際交流を目指して各種の文化施設で参加費無料の音楽会などが開催されてきた。民博では、「音楽の祭日」の趣旨に賛同し、社会連携の一環として、音楽家または音楽グループに博物館を開放することを目的としてイベント「音楽の祭日2011 in みんなく」を開催した。なお、民博における「音楽の祭日」の開催は、2003年以来通算 9 回目となった。

10. 実施概要等

特別展示館（約300席）およびエントランスホール（約150席）をメイン会場とした。応募があった出演音楽家・音楽団体19グループすべてが参加し演奏をおこなった。特別展示館以外に、本館展示場内 7 カ所で演奏を実施した。また、特別展示館の音響・照明およびエントランスホールの一部照明については、専門業者が担当した。気温が高く湿度も高い 1 日ではあったが、特別展示館、エントランスホールとも終始ほぼ満席の状態となり、立ち見の参加者もみられた。

11. 当日の様子



以上

展 示 分 野

資料 1. 文化資源プロジェクト（機関）

本館展示新構築

2011年度は、2008年度から開始された本館展示新構築の第4年次にあたり、本年度は、情報展示場、イントロダクション展示からなる「インフォメーション・ゾーン」ならびに「ヨーロッパ」展示を新たに構築し、2012年3月に一般公開した。

資料 2. 特別展（文化資源プロジェクト）

1. 特別展「ウメサオタダオ展」

2011年3月10日～6月14日

主 催：国立民族学博物館

実行委員長：小長谷有紀（民族社会研究部）

実 行 委 員：

〔館 内〕 飯田 卓（文化資源研究センター）、上羽陽子（文化資源研究センター）、
太田心平（研究戦略センター）、久保正敏（文化資源研究センター）、
中牧弘允（民族文化研究部）、八杉佳穂（民族文化研究部）、
吉田憲司（文化資源研究センター）

梅棹忠夫の残した資料を利用して、その思想の全容や、先見性ならびに革新性を提示する展示を実施することができた。

2. 特別展「千島・樺太・北海道 アイヌのくらしードイツコレクションを中心にー」

2011年10月6日～12月6日

主 催：財団法人アイヌ文化振興・研究推進機構、国立民族学博物館

実行委員長：佐々木史郎（民族文化研究部）

実 行 委 員：

〔館 内〕 伊藤敦規（文化資源研究センター）、岸上伸啓（先端人類科学研究部）、
斎藤玲子（民族文化研究部）、萱野志郎（萱野茂二風谷アイヌ資料館館長）、
佐々木利和（北海道大学アイヌ・先住民研究センター）、
手塚 薫（北海道各園大学）、出利葉浩司（北海道開拓記念館）、
山崎幸治（北海道大学アイヌ・先住民研究センター）

本特別展は、二部構成となっており、第1部「百年前のアイヌのくらしー千島・樺太・北海

道」では、ドイツのライプツィヒおよびドレスデンの民族学博物館から借用した資料や写真と、これらとほぼ同時期に収集された民博の所蔵資料（東京大学旧蔵資料）を中心とした標本資料の展示を行った。

また、第2部「黎明期の日本人類学とアイヌ研究」では、日本の初期の人類学者とアイヌ研究のかかわりを中心に、写真資料と標本資料等から紹介した。

本展覧会をとおして、まだその独自性を残していた明治～昭和初期のアイヌの人々のくらしを紹介するとともに、当時の生活用具製作の技術の高さと、工芸品としての完成度の高さを示すことができた。同時に、これらの資料が収集された背景と黎明期にあった日本の人類学の活動の一端を紹介することができたと考えている。

資料3. 企画展（文化資源プロジェクト）

1. 企画展「民族学者 梅棹忠夫の眼」

2011年3月3日～6月14日

プロジェクト・リーダー：吉田憲司（文化資源研究センター）

プロジェクト・メンバー：[館内] 飯田 卓（文化資源研究センター）

梅棹忠夫が、世界各地で自身が撮影した写真のなかから自ら46点を選び、国内各地で開催した写真展「民族学者 梅棹忠夫の眼」を、特別展「ウメサオタダオ展」の開催にあわせ、民博の企画展として再現した。

2. 企画展「インド ポピュラー・アートの世界－近代西欧との出会いと展開」

2011年9月22日～11月29日

プロジェクト・リーダー：三尾 稔（研究戦略センター）

プロジェクト・メンバー：[館外] 福内千絵

19世紀後半から20世紀前半にかけて西欧文明との出会いの中で誕生し、ユニークな発展を遂げたインドのポピュラー・アート（印刷宗教画、彩色写真、絵葉書、ポスター、カレンダー、マッチやたばこの包装紙画など）。約140点の印刷絵画やポスター、コラージュの展示を通じて、その成り立ちや魅力を紹介し、今日の「インド」イメージの源流に迫った。

資料4. 特別展・企画展の準備（文化資源プロジェクト）

1. 特別展「今和次郎 採集講義－考現学の今」

2012年4月26日～6月19日

実行委員長：久保正敏（文化資源研究センター）

実行委員：

- [館内] 朝倉敏夫（文化資源研究センター）、小林繁樹（文化資源研究センター）、
近藤雅樹（民族文化研究部）、佐藤浩司（民俗社会研究部）、
飯田 卓（文化資源研究センター）
- [館外] 横川公子（武庫川女子大学）、小山茂樹（㈲ブックポケット代表）、
岡本信也、岡本靖子（以上、野外活動研究会）、高橋晴子（大阪樟蔭女子大学）、
荻原正三（工学院大学）、黒石いずみ（青山学院大学）

この特別展は、青森県立美術館にて平成23年10月から2ヶ月間、パナソニック 汐留ミュージアムにて平成24年1月から2ヶ月間、開催された「今和次郎 採集講義」展の全資料を借用の上、民博の資料と研究を合わせて展示する。そのための事前調査と関係者打ち合わせに基づいて展示設計を行った。

2. 特別展「世界の織機と織物 ― 織って！みて！織りのカラクリ大発見 ―」

2012年9月13日～11月27日

プロジェクト・リーダー：吉本 忍（民族文化研究部）

プロジェクト・メンバー：[館内] 上羽陽子（文化資源研究センター）

本事業では、特別展「世界の織機と織物」の展示準備として、国内各地で展示資料の借用交渉をはじめとする手続きや展示資料の収集と映像取材などをおこない、イタリアとオーストリアで展示映像資料の取材をおこなった。

資料5. 巡回展（文化資源計画事業）

1. 「マンダラ ― チベット・ネパールの仏たち」

プロジェクト・リーダー：南真木人（文化資源研究センター）

2011年7月30日～9月4日まで、松本市立博物館・国立民族学博物館・千里文化財団主催の上記巡回展を開催した。

2. 「蔚山コレクション」

プロジェクト・リーダー：朝倉敏夫（文化資源研究センター）

韓国国立民俗博物館との「蔚山達里100年学術交流」協定に基づき、蔚山市立博物館において本館「蔚山コレクション」を貸出して、2011年11月28日～4月29日まで特別展を開催した。

3. 「ウメサオタダオ展」

プロジェクト・リーダー：小長谷有紀（民族社会研究部）

東京の文部科学省管轄下にある日本科学未来館で「ウメサオタダオ展 ― 未来を探検する知の道具 ―」（平成23年12月21日～平成24年2月20日）を開催した。

4. 「彫刻家エル・アナツイのアフリカ」

プロジェクト・リーダー：川口幸也（民族文化研究部）

プロジェクト・メンバー：

〔館 内〕 竹沢尚一郎（先端人類科学研究部）

〔館 外〕 松本尚之（横浜国立大学）、水沢 勉、朝木由香（以上、神奈川県立近代美術館）、
平井鉄寛、小林博之（以上、鶴岡アートフォーラム）、
中村 誠、渋谷 拓（以上、埼玉県立近代美術館）

鶴岡アートフォーラム（山形）と埼玉県立近代美術館において、「彫刻家エル・アナツイのアフリカ」展の巡回展を開催した。

資料6. その他の文化資源プロジェクト

1. 人間中心デザインに基づいた社会還元効果を高める展示デザインの実証的研究

提案者：平井康之（文化資源研究センター、客員教員）

共同提案者：野林厚志（研究戦略センター）

ユーザーワークショップを通じて得られた気づきから課題の抽出を行い、具体的解決方法として多様なユーザーのアクセシビリティを高める館内案内図と館内案内パンフレットをデザインした。それらは実際の展示デザインに応用された。

2. 次世代ビデオテークについての検討

プロジェクト・リーダー：福岡正太（文化資源研究センター）

ビデオテークのあり方からブースの形状、システム構成など多岐に渡って検討する必要があったため、株式会社コムソンと契約し、検討会や打合せを行った。併行して、番組のハイビジョン化や最新パソコンへのコンテンツの移行についての実験を行った。

3. 次世代電子ガイドのプロトタイプの開発実験

プロジェクト・リーダー：福岡正太（文化資源研究センター）

平成22年度のプロジェクトとして試作した iPod Touch 版のコンテンツを充実させ、無線 LAN 経由での利用実験を継続的に行い、館内で展示物の情報提供をするにあたり、その方法や課題等を整理した。同時に、既存の電子ガイドコンテンツをアンドロイド端末等へも移行し、試作版を作成し、既存の携帯情報端末の利用性についての検討を行った。

また、電子ガイドを作成するにあたり、その基礎となるユーザー調査を実施した。特にユーザーインターフェース設計で利用されるコンテキスト調査法を利用しつつ、電子ガイドの設計に寄与するデータを分析・整理した。

4. 電子ガイド用コンテンツの製作

プロジェクト・リーダー：福岡正太（文化資源研究センター）

オセアニア展示用に、新たに19本のコンテンツの日本語版／英語版／韓国語版／中国語版を

作成した。アメリカ展示用には、コンテンツ作成の対象となる展示資料の選定を行った。

5. 中央・北アジア展示新構築事前調査

プロジェクト・リーダー：佐々木史郎（民族文化研究部）

2012年1月20日に第1回目の研究会と展示場と収蔵庫での調査を行い、今後の展示基本計画の策定を行った。

資料7. その他の文化資源計画事業

1. 言語展示場メンテナンスプロジェクト

プロジェクト・リーダー：庄司博史（民族社会研究部）

言語展示は新構築企画のなかで2009年度に全面改修をおこなった。本プロジェクトは「世界の言語」「語順のいろいろ」装置のシステムと操作性の改修および修正、並びに、その修正に伴うデータを追加した。

2. 音楽展示の部分改修

プロジェクト・リーダー：福岡正太（文化資源研究センター）

文化資源共同研究員：寺田吉孝（民族文化研究部）、笹原亮二（研究戦略センター）

2009年度に新構築した音楽展示について、展示資料の安全を確保して、長期の展示に耐えられるようにするとともに、展示にこめたメッセージがより効果的に来館者に伝わるようにすることを目的として、展示の一部手直しを行った。

3. 年末年始イベント「たつ」

2011年12月15日～2012年1月31日

プロジェクト・リーダー：小林繁樹（文化資源研究センター）

プロジェクト・メンバー：

〔館内〕岩谷洋史（文化資源研究センター）

2012年の干支である「たつ」に因む資料を民博の所蔵資料の中から選び、本館展示場内に展示し、タツにまつわる文化の解説を行った。また、展示活動研修会の受講生が撮影した写真パネルを企画展示場Bに展示した。

特別展

ウメサオタダ才展

2011年3月10日(木)―6月14日(火) 特別展示館

〔開館時間〕午前10時―午後5時(入館は午後4時30分まで) 〔休館日〕毎週水曜日(ただし、5月4日(水・祝)は開館)
〔無料観覧日〕3月13日(日)、5月5日(木・祝) 〔主催〕国立民族学博物館 〔協力〕財団法人千里文化財団



国立民族学博物館

関西から

文化力
POWER OF
CULTURE

読売新聞1976年撮影

特別展

ウメサオタダオ展

知的先覚者の軌跡

国立民族学博物館を創設し、初代館長をつとめた梅棹忠夫は、つねに分野をこえて、平易なことばで、斬新な知見をのめしてきました。本特別展では、かれの足跡をたどりながら、その思想の先見性や実効力をあらためて発見していただきます。タイトルのウメサオタダオというカタカナ書きは、そうした先覚性や革新性をあらわしています。

名著「知的生産の技術」(1969年岩波新書)ができるまでの、カード、こざね(メモの連なり)、直筆原稿など、すべてを初公開します。また、著作集全22巻をおもにとりあげ、どのような観察記録から生まれたものかを復原します。

日本のいかなる問題も、もはや日本だけで解決することのできない現代において、わたしたちにもっとも必要なことのひとつは、世界に対する好奇心ではないでしょうか。

あくなき好奇心を発揮し、世界をあるき、ひらめきをのがさず、未来を想像し、文明論を構築していった、知的先覚者の軌跡。それは、みなさん一人ひとりに、混沌の時代をこえて未来をつくる羅針盤をきつとめしめてくれるにちがいない。ウメサオ流世界のあるきかたのツボを、どうぞ、つかまえてください。



1963-64年 京都大学アフリカ学術調査隊
人類班のエヤシ基地にて 隊員たちと

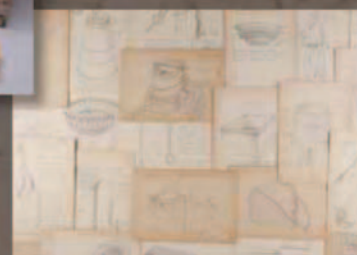


カナタイプライター(1973年)
梅棹は、1970年以降、1台でカナ、かな、ローマ字のうてる縦書き電動タイプライターの開発にかかった。商品化されなかったもので、世界にこれ1台しかない。(ブラザー工業株式会社所蔵)

京都大学カラコラム・ヒンズークシ学術探検隊の個人装備用木箱とフィールド・ノート(フィールド・ノートは、モンゴル1944-45年、アフガニスタン1955年、アフリカ1963-64年のもの)



『知的生産の技術』構想時の「こざね」(1960年代)
梅棹は、要点を一枚ずつ小さな紙にかきつけ、それを配列してホッチキスでとめて部品をつくり、文章にしあげてゆく、という方法を提唱した。よろいを構成する部品の名前をとって、こざね法とよばれている。



モンゴル図譜(1944-45年)
梅棹は、蒙古善隣協会西北研究所のエクスペディションに参加し、A5判の画用紙に、おおくの生活用品をえがいて記録している。これらのスケッチは、『有蹄類動物の生態学的研究』などと偽装した箱にいれて無事に持ちかえることができた。

関連イベント

企画展

「民族学者 梅棹忠夫の眼」
3月3日(木)〜6月14日(火)
本館展示場

みんなくゼミナール

3月19日(土)
4月16日(土)
5月21日(土)

みんなくウィークエンド・サロン 研究者と話そう
毎週日曜午後

研究公演

5月5日(木・祝) 予定
※要事前申込

【観覧料】一般420円(350円)、高校・大学生250円(200円)、小・中学生110円(90円)

()は、20名以上の団体料金、大学等*の授業でご利用の方、授業レポート等の作成を目的とする高校生、3ヶ月以内のリポーター、満65歳以上の方の割引料金(要証明書等)*大学等は、短大、大学、大学院及び専修学校の専門課程 ※自然文化園(有料区域)を通行される場合は、自然文化園各ゲート脇の券売機で当館(国立民族学博物館)の観覧券をお買い求めください。同園内を無料で通行できます。 ※障害者手帳をお持ちの方は、付添者1名とともに無料で観覧できます。また、毎週土曜日は、小学生・中学生・高校生は無料で観覧できます。ただし、自然文化園を通行される場合は、同園の入園料が別途必要です。

交通のご案内 *国立民族学博物館(みんなく)は入阪・千里の万博記念公園内にあります。

大阪モノレール 「万博記念公園駅」下車徒歩約15分(展示場をご覧になる方は、みんなくの観覧券をゲートにてお買い求めになれば無料で通行できます。) / 「公園東口駅」下車徒歩約15分(「公園東口駅」からは自然文化園を通行せずに来館できます。)

バス [近鉄バス](阪大本部前行き)阪急茨木市駅から約20分・JR茨木駅から約10分「日本庭園前」下車、徒歩約15分 [万博記念公園駅経由千里中央行き] 阪急茨木市駅から約20分、JR茨木駅から約10分「自然文化園・日本庭園中央」下車、徒歩約5分

タクシー 万博記念公園「日本庭園前駐車場」まで乗り入れることができます。下車、徒歩約5分

自動車 駐車施設が無い「みんなく」への車の乗り入れはできません。万博記念公園の駐車場(有料)をご利用願います。最寄り「日本庭園前駐車場」から徒歩約5分(「日本庭園前駐車場」をご利用の方は、「日本庭園前ゲート」横にある国立民族学博物館専用通行口をお通りください。)



【お問い合わせ先】 国立民族学博物館

〒565-8511 大阪府吹田市千里万博公園10番1号 TEL:06-6876-2151(代)

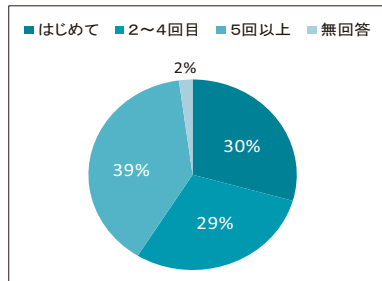
<http://www.minpaku.ac.jp/>



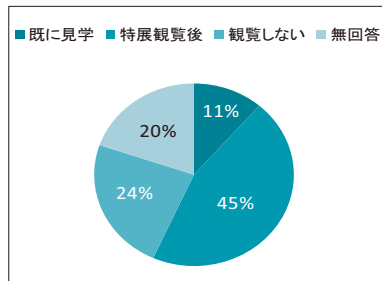
特別展「ウメサオタダオ展」 アンケートグラフ

○ アンケート回答数238件

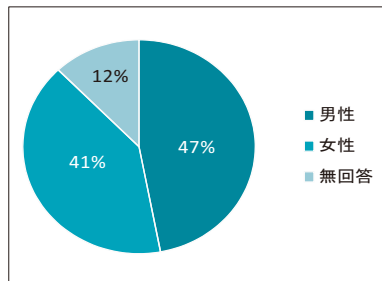
来数回館



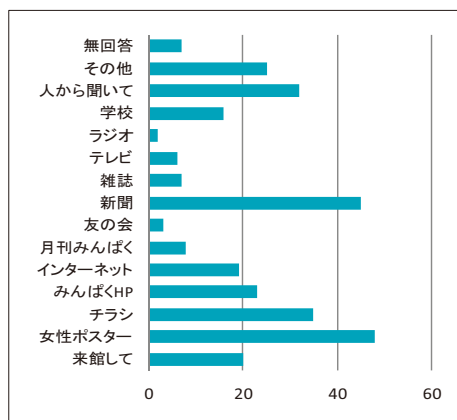
常設展示場の観覧について



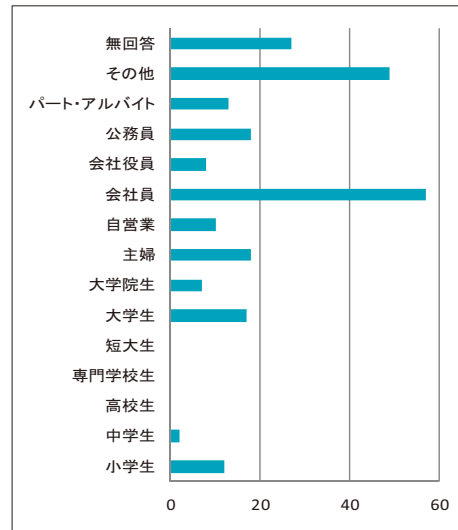
性別（男女比）



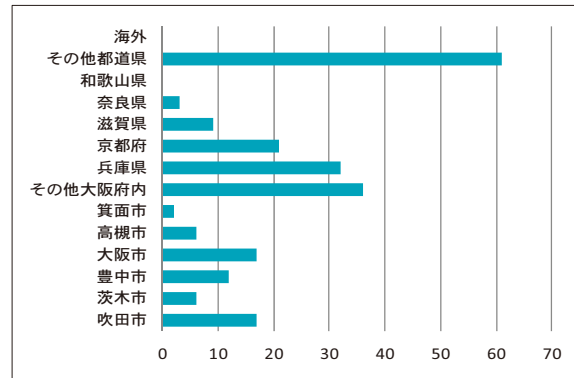
特別展を知ったのは（複数回答）



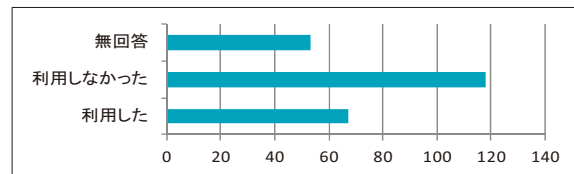
職業



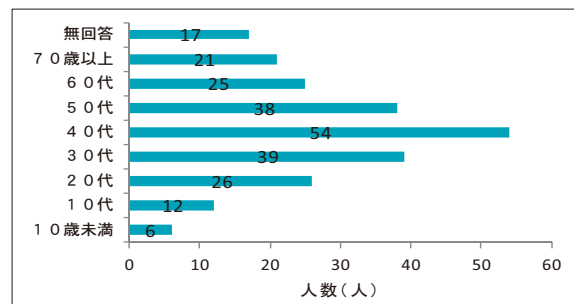
どこから来られましたか？



デジキャビの利用について



年代別



DEVOTION TO THE ARTS OF LIVING
Daily Life Among the Aynu of the Kurile, Sakhalin and Hokkaido Islands



特別展 | 千島・樺太・北海道
アイヌのくらし

—— ドイツコレクションを中心に ——

2011年10月6日(木) — 12月6日(火)

特別展示館 開館時間=午前10時～午後5時 [入館は午後4時30分まで]

休館日=水曜日 [期間中11月23日(水・祝)は開館、翌24日(木)は休館]

主催=国立民族学博物館 共催(共同主催)=財団法人アイヌ文化振興・研究推進機構 後援=国土交通省、文化庁、外務省、大阪・神戸ドイツ連邦共和国総領事館、北海道、北海道教育委員会、大阪府教育委員会、吹田市、吹田市教育委員会、社団法人北海道アイヌ協会 協力=ドレスデン国立アートコレクション、ザクセン国立民族誌コレクション群、ライプツィヒ民族学博物館、ドレスデン民族学博物館、北海道開拓記念館、東京大学総合研究博物館、東京大学大学院医学系研究科・医学部細胞生物学・解剖学講座、板橋区立郷土資料館、板橋市中央図書館、財団法人アイヌ民族博物館、北海道大学アイヌ・先住民研究センター、北海道大学スラブ研究センター、財団法人千里文化財団、日本万国博覧会記念機構



国立民族学博物館

特別展 千島・樺太・北海道 アイヌのくらし ——ドイツコレクションを中心に——

ヨーロッパではアイヌ民族に対する関心が高く、19世紀末から20世紀初めにかけてアイヌに関する資料が盛んに収集されました。特にドイツでは、北海道、樺太(サハリン)、千島列島のアイヌの民具が多数収集されました。今回はその中でも、ライプツィヒとドレスデンの民族学博物館から152点の資料と30点あまりの写真を借用して展示します。また、これらとはほぼ同時期に収集された本館の所蔵資料(東京大学旧蔵資料)も展示します。アイヌ文化が急激な変化を被りつつも、その独自性を残していた100年前の人のくらしを紹介するとともに、生活用具製作の技術の高さと、工芸としての完成度の高さを示していきたいです。また当時、黎明期にあった日本の人類学の活動の一端も紹介します。なお、今年は日独交流150周年で、本特別展はその関連事業の一つです。

●関連イベント

※詳しくはみんなばくホームページをご覧ください。

■みんなばくゼミナール

「物にみるアイヌ文化の地域性」
講師: 香島玲子 10月15日(土)
13:30~15:00 定員450名

「絵画にあらわれたアイヌの風俗」
講師: 佐々木利和 11月19日(土)
13:30~15:00 定員450名

■みんなばく映画会

「TOKYOアイヌ」
解説: 宇賀野江 10月9日(日)
13:30~16:00 定員450名

「ビューティフルジャパン(美しい日本)」
解説: 岡田正子 10月30日(日)
13:30~16:30 定員450名

「Ainu Past and Present
—ママンローのフィルムから見てくもの—」
解説: 内田順子 12月4日(日)
13:30~15:45 定員450名

■研究公開

「アイヌ音楽ライブ・トコリメウボガ」
出演者: OKI(オキ)+マレウレウ
10月16日(日) 要事前申込
14:00~15:30 定員450名

■ワークショップ

「ムックリ体験」
講師: アイヌ民族博物館職員 10月22日(土)
①10:15~12:15 ②14:00~16:00
定員各回30名

「アイヌ女性の手仕事を現代に」
講師: 遠山サキ・新沢子 11月6日(日)
①樹皮糸でストラップを編もう
10:30~12:30 定員20名
②ガマの袋でミニごごをつくらう
14:00~16:30 定員20名

■国際シンポジウム

「編み物からアイヌ文化研究の可能性を求めて」
11月12日(土) 10:30~17:30
11月13日(日) 10:00~16:00
定員80名

■みんなばくウィークエンド・キッズ
10月9日(日)、10月23日(日)、10月30日(日)、
11月27日(日)、12月4日(日)

■ギャラリーツアー

10月8日(土)、10月10日(月・祝)、
10月15日(土)、10月29日(土)、
11月5日(土)、11月23日(水・祝)、
11月26日(土)、12月3日(土)

【掲載資料】 漁 上から ①、網子(樺太) ②、網(千島) ③、網籠り(北海道)
④、網(北海道) ⑤、網(北海道) ⑥、漁具(樺太) ⑦、ア、カ、ン(樺太)
⑧ 上から ⑧、小刀(北海道) ⑨、網(千島) ⑩、網子(千島)
⑪、魚籠り(樺太) ⑫、イフバスイ(樺太) ⑬、漁具(北海道)
⑭、⑮、⑯はライプツィヒ民族学博物館所蔵、他は国立民族学博物館所蔵

【観覧料】一般420円(350円) 高校・大学生250円(200円) 小・中学生110円(90円)
()は、20名以上の団体料金、大学等*の授業でご利用の方、授業レポート等の作成を目的とする高校生、3ヶ月以内のリピーター、満65歳以上の方の割引料金(要証明書)*大学等は、短大、大学、大学院、専修学校の専門課程〔無料観覧日〕11月3日(水・祝)、11月19日(土)、11月20日(日)
※自然文化園(有料区域)を通行される場合は、自然文化園各ゲートの券売機で当館(国立民族学博物館)の観覧券をお買い求めください。同園内を無料で通行できます。※障がい者手帳をお持ちの方は、付添者1名とともに無料で観覧できます。また、毎週土曜日は、小学生・中学生・高校生は無料で観覧できます。ただし、自然文化園(有料区域)を通行される場合は、同園の入園料が必要です。

【お問い合わせ先】 国立民族学博物館

〒565-8511 大阪府吹田市千里万博公園10番1号
TEL:06-6876-2151(代) <http://www.minpaku.ac.jp/>



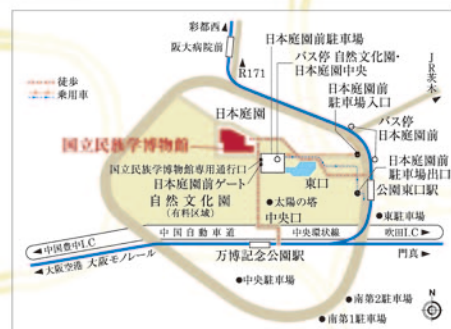
エキムネ
ekimne

ウパロイキ
uparoyki

イペ
ipe

イミ
imi

イノミ
inomi



【交通案内】 国立民族学博物館(みんなばく)は大阪・千里の万博記念公園内にあります。

■大阪モノレール 「万博記念公園駅」下車徒歩約15分(展示場をのぞく方には、みんなばくの観覧券をゲートにてお買い求めになれば無料で通行できます。)*「公園東口駅」下車徒歩約15分(「公園東口駅」からは自然文化園(有料区域)を通行せずに来館できます。)

■バス [近鉄バス] (阪大本部前行き) 阪急茨木駅から約20分・JR茨木駅から約10分「日本庭園前」下車、徒歩約15分[阪急バス] (万博記念公園駅経由千里中央行き)・阪急茨木駅から約20分、JR茨木駅から約10分「自然文化園・日本庭園中央」下車、徒歩約5分

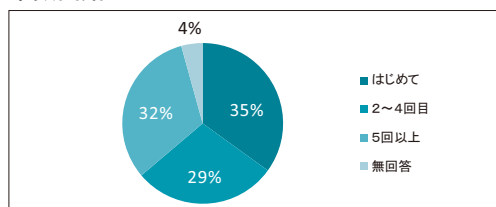
■タクシー 万博記念公園「日本庭園前駐車場」まで乗り入れることができます。下車、徒歩約5分

■自動車 駐車施設が無い「みんなばく」への車の乗り入れはできません。万博記念公園の駐車場(有料)をご利用願います。最寄り「日本庭園前駐車場」から徒歩約5分 *「日本庭園前駐車場」をご利用の方は、「日本庭園前ゲート」にある国立民族学博物館専用通行口をお通りください。

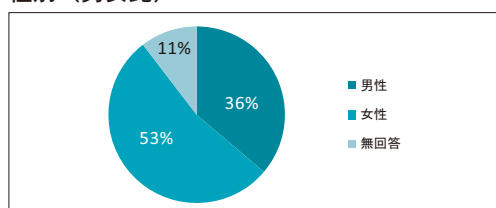
特別展「千島・樺太・北海道 アイヌの暮らし — ドイツコレクションを中心に —」 アンケートグラフ

○ アンケート回答数 163件

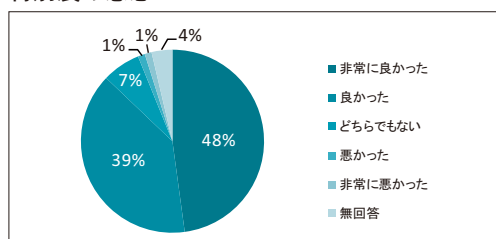
来数回館



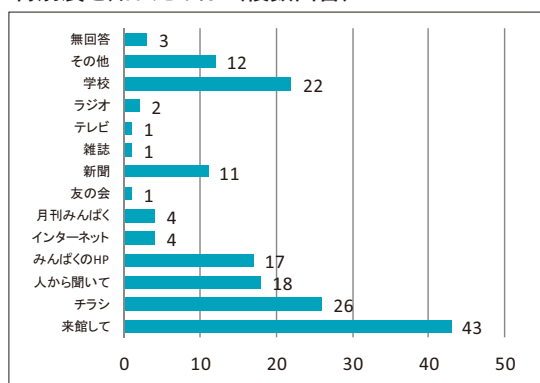
性別（男女比）



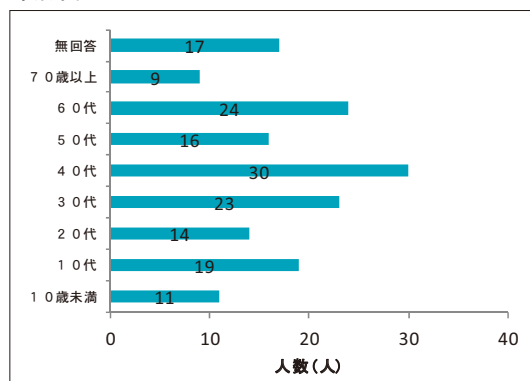
特別展の感想



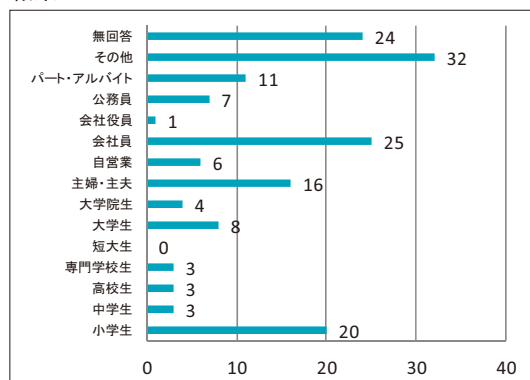
特別展を知ったのは（複数回答）



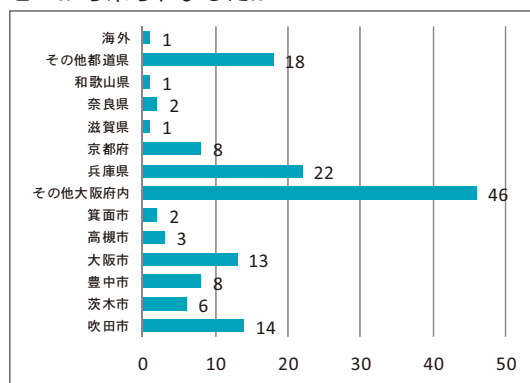
年別代



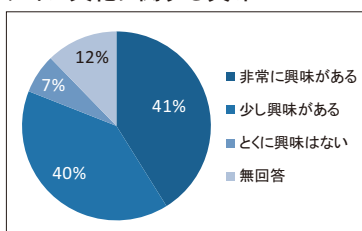
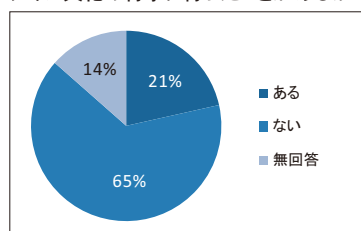
職業



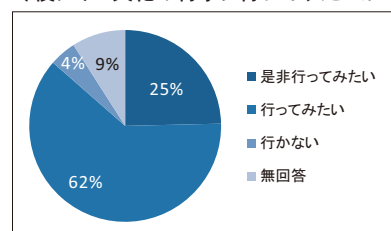
どこから来られましたか？



アイヌ文化の行事に行ったことがあるか？ アイヌ文化に関する興味



今後アイヌ文化の行事に行ってみたいか？





梅棹忠夫がカメラ・レンズを通して
「眼」をこらした世界を
あらためて見つめなおす。

特別展「ウメサオ タダオ展」関連・写真展

企画展 民族学者
梅棹忠夫の眼

2011年3月3日[木]—6月14日[火]

10:00-17:00(入館は16:30まで)

場所 国立民族学博物館 本館展示場内

主催 国立民族学博物館

大阪府吹田市千里万博公園10-1 06-6876-2151(代表) <http://www.minpaku.ac.jp/>

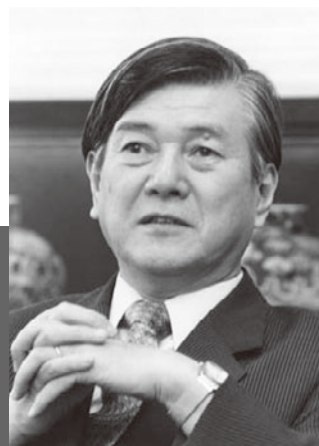


みんなの
携帯
サイト

特別展「ウメサオ タダオ展」関連・写真展

企画展 民族学者 梅棹忠夫の眼

梅棹忠夫は、世界各地で自身が撮影した写真のなかから自ら46点を選び、写真展「民族学者 梅棹忠夫の眼」を1982年から2010年にかけて国内各地で開催しました。特別展「ウメサオ タダオ展」の開催にあわせ、企画展としてその写真展を再現します。日本写真家協会会員でもあった民族学者・梅棹忠夫が、カメラ・レンズを通して「眼」をこらした世界をあらためてご覧ください。



ナシ族。中華人民共和国雲南省麗江納西族自治県。ナシ族はチベット系農耕民で、金沙江上流の大屈曲点ちかく、玉龍山(5950メートル)の山麓、麗江にすむ。ふるくから漢文化に接し、その影響をうけているが、独特の風俗、文化をたもっている。奇妙な絵文字でかかれた「トンパ経」をつたえていることで有名である。(1979)



リビア王国フェザン、セバハ市。リビア南部のサハラの各地から、ラクダがあつめられて、セバハで市がひらかれる。一見不毛とみえるサハラ砂漠にも、おびただしい数のラクダが放牧されている。ペドウィン遊牧民たちがそれを監視している。(1968)



イタリア共和国アブルッツォ・モリーゼ県チェルクエート村。年に一度の村祭。お寺での儀式ののち、聖者の像、マリア様の像などがかつぎだされ、村のなかをねりある。村びとは、老人も子どもも、その行列にくわる。となり村から、楽隊がやとわれてきていた。(1969)

関連展示情報

特別展 ウメサオ タダオ展

日 時: 2011年3月10日(木) - 6月14日(火) 場 所: 特別展示館

本館展示の観覧料でご覧いただけます。

【開館時間】午前10時～午後5時(入館は午後4時30分まで)

【休館日】水曜日(ただし、5月4日(水・祝)は開館)

【観覧料】一般420円(350円)、高校・大学生250円(200円)、小・中学生110円(90円)

()は、20名以上の団体料金、大学等*の授業でご利用の方、授業レポート等の作成を目的とする高校生、3ヶ月以内のリピーター、満65歳以上の方の割引料金(要証明書等)

*大学等は、短大、大学、大学院、専修学校の専門課程

【無料観覧日】3月13日(日)、5月5日(木・祝)

※自然文化園(有料区域)を通行される場合は、自然文化園各ゲート脇の券売機で当館(国立民族学博物館)の観覧券をお買い求めください。同園内を無料で通行できます。

※障害者手帳をお持ちの方は、付添者1名とともに無料で観覧できます。また、毎週土曜日は、小学生・中学生・高校生は無料で観覧できます。ただし、自然文化園を通行される場合は、同園の入園料が別途必要です。

交通のご案内

*国立民族学博物館(みんぱく)は大阪・千里の万博記念公園内にあります。

「みんぱく」とは大阪共同利用機関法人 人間文化研究機構国立民族学博物館の愛称です。

●大阪モノレール

「万博記念公園駅」下車徒歩約15分(展示をご覧になる方は、みんぱくの観覧券をゲートにてお買い求めになれば無料で通行できます。)

「公園東口駅」下車徒歩約15分(「公園東口駅」からは自然文化園を通行せずに来館できます。)

●バス

〔近鉄バス〕(阪大本部前行き) 阪急茨木市駅から約20分/JR茨木駅から約10分「日本庭園前」下車、徒歩約15分

〔阪急バス〕(万博記念公園駅経由千里中央行き) 阪急茨木市駅から約20分、JR茨木駅から約10分

「自然文化園・日本庭園中央」下車、徒歩約5分

●タクシー

万博記念公園「日本庭園前駐車場」まで乗り入れることができます。下車、徒歩約5分

●自動車

駐車施設が無い「みんぱく」への車の乗り入れはできません。

万博記念公園の駐車場(有料)をご利用願います。最寄り「日本庭園前駐車場」から徒歩約5分

*「日本庭園前駐車場」をご利用の方は、「日本庭園前ゲート」横にある国立民族学博物館専用通行口を通りください。

お問い合わせ先

国立民族学博物館

〒565-8511 大阪府吹田市千里万博公園10番1号

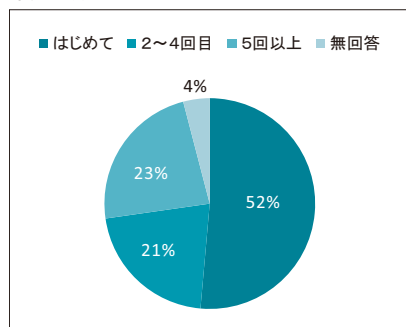
TEL:06-6876-2151(代) <http://www.minpaku.ac.jp/>



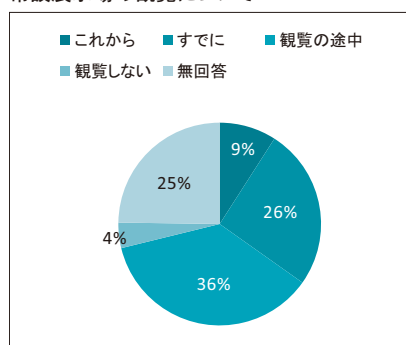
企画展「民族学者 梅棹忠夫の眼」 アンケートグラフ

○ アンケート回答数 319件

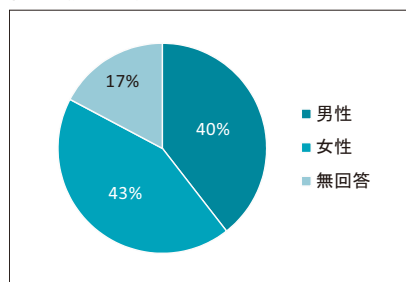
来数回館



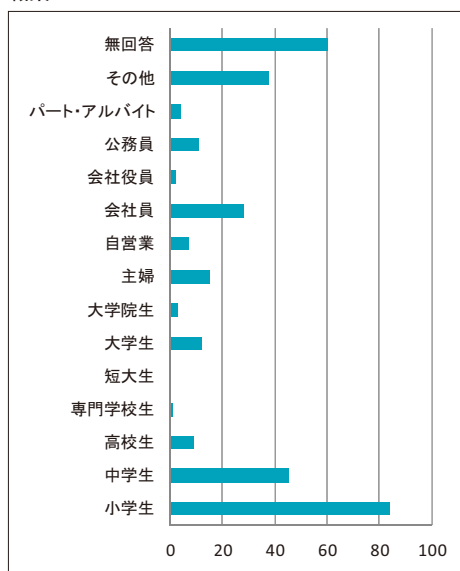
常設展示場の観覧について



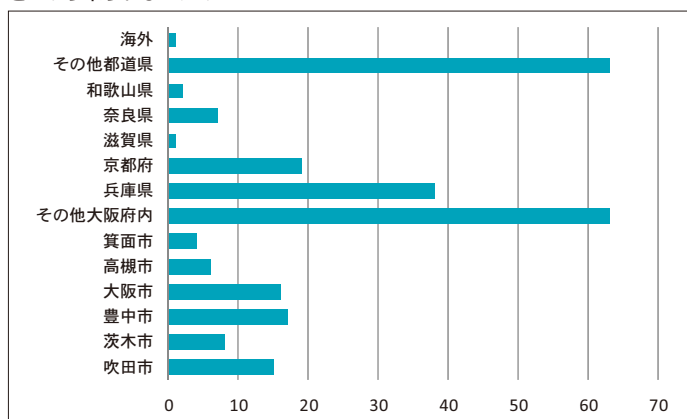
性別（男女比）



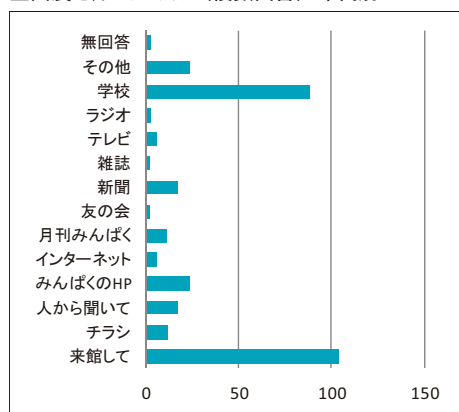
職業



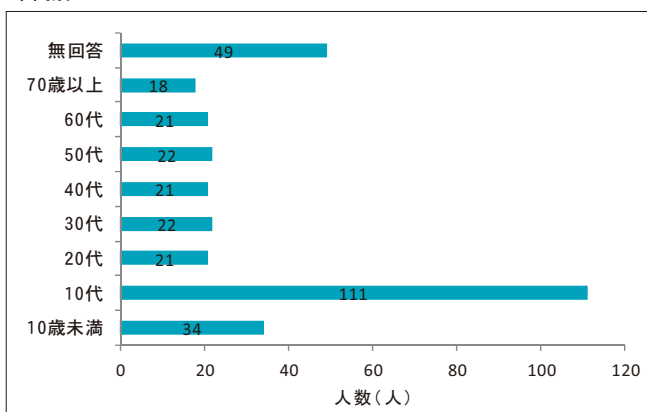
どこから来られましたか？



企画展を知ったのは（複数回答）年代別



年代別



国立民族学博物館 企画展



インド ポピュラー・アートの 世界

～近代西欧との
出会いと展開

2011年9月22日(木)～11月29日(火)
国立民族学博物館 本館 企画展示場A

主催 国立民族学博物館



助成 独立行政法人日本万国博覧会記念機構

Supported by the Commemorative Organization for the Japan World Exposition('70).
この助成金は、日本万国博覧会の収益を基にしています。



19世紀後半から20世紀前半にかけて西欧文明との出会いの中で誕生し、ユニークな発展を遂げたインドのポピュラー・アート（印刷宗教画、彩色写真、絵葉書、ポスター、カレンダー、マッチやたばこの包装紙画など）。約140点の印刷絵画やポスター、コラージュの展示を通じて、その成り立ちや魅力を紹介し、今日の「インド」イメージの源流に迫ります。



indian
popular art

© 国立民族学博物館

インド ポピュラー・アートの世界

国立民族学博物館企画展

～近代西欧との
出会いと展開



インドのポピュラー・アートは、宗教画や細密画の伝統を下地に、19世紀にインドに到来した印刷技術、西欧風の構図やモチーフの影響を深く受けて成立しました。そして宗教画・ポスター・カレンダー・マッチやたばこの包装デザインなど様々な媒体に展開し、独特のテーマや技法を有するユニークな美術ジャンルに発展しました。まさに日用品の中の芸術として人びとの生活に根づいて発展してきたのです。当時のポピュラー・アートを読む

み解くことは、それを作成し鑑賞した人びとの世界観や価値観を知ることにつながります。

またこの時期に確立したポピュラー・アートは、現代のインドイメージの形成や今日のインドの大衆の美的センスや趣味にも大きな影響を与えています。ポピュラー・アートは現代インドを理解するための1つの鍵と言えるでしょう。

関連企画のご案内

みんなく ウィークエンド・サロン - 研究者と話そう

本企画展の準備に携わってきた研究者が展示場でインドのポピュラー・アートの背景や見どころをわかりやすく解説します。11月には展示作品のコレクターのジャイン博士が来館し、自身のコレクションについてお話しします。日程は右の通り。詳しい時間やテーマはみんなくホームページ等で別途ご案内します。

- ➡10月2日㊟ 三尾 稔
(国立民族学博物館・研究戦略センター・准教授)
- ➡10月16日㊟ 福内千絵 / 三尾 稔
(国立民族学博物館・外来研究員)
- ➡11月6日㊟ Jyotindra Jain / 三尾 稔
(インド視覚芸術センター所長) *日本語通訳付き

国際研究セミナー

「近現代インドのポピュラー・アートとナショナリズム」をテーマに、ジャイン博士などをゲスト・スピーカーとして11月5日(土)に国立民族学博物館において国際研究セミナーを開催します(英語、通訳なし)。詳細はみんなくホームページ等で別途ご案内します。

開館時間：午前10時～午後5時 (入館は午後4時30分まで)

休 館 日：水曜日 (水曜日が祝日の場合は、翌日が休館)

観 覧 料：一般420円(350円)、高校・大学生250円(200円)、
小・中学生110円(90円)

()は、20名以上の団体料金、大学等*の授業でご利用の方、授業レポート等の作成を目的とする高校生、3ヶ月以内のリピーター、満65歳以上の方の割引料金(要証明書等)
*大学等は、短大、大学、大学院、専修学校の専門課程



無料観覧日：11月3日(木・祝)、11月19日(土)、11月20日(日)

*自然文化園(有料区域)を通行される場合は、自然文化園各ゲート脇の券売機で当館(国立民族学博物館)の観覧券をお買い求めください。同園内を無料で通行できます。

*障害者手帳をお持ちの方は、付添者1名とともに無料で観覧できます。また、毎週土曜日は、小学生・中学生・高校生は無料で観覧できます。ただし、自然文化園を通行される場合は、同園の入園料が必要です。

交通のご案内

*国立民族学博物館(みんなく)は大阪・千里の万博記念公園内にあります。
「みんなく」とは大学共同利用機関法人 人間文化研究機構国立民族学博物館の愛称です。

- 大阪モノレール
「万博記念公園駅」下車、徒歩約15分(展示をご覧になる方は、みんなくの観覧券をゲートにてお買い求めにければ無料で通行できます。)
「公園東口駅」下車徒歩約15分
(「公園東口駅」からは自然文化園(有料区域)を通行せずに来館できます。)
- バス
〔近鉄バス〕(阪大本部前行き) 阪急茨木市駅から約20分
JR茨木駅から約10分「日本庭園前」下車、徒歩約15分
〔阪急バス〕(万博記念公園駅経由千里中央行き)
阪急茨木市駅から約20分、JR茨木駅から約10分
「自然文化園・日本庭園中央」下車、徒歩約5分
- タクシー
万博記念公園「日本庭園前駐車場」まで乗り入れることができます。下車、徒歩約5分
- 自動車
駐車施設が無い「みんなく」への車の乗り入れはできません。
万博記念公園の駐車場(有料)をご利用願います。最寄り「日本庭園前駐車場」から徒歩約5分
*「日本庭園前駐車場」をご利用の方は、「日本庭園前ゲート」横にある国立民族学博物館専用通行口をお通りください。

お問い合わせ先

国立民族学博物館

〒565-8511
大阪府吹田市千里万博公園10番1号
TEL : 06-6878-2151 (代)
<http://www.minpaku.ac.jp/>

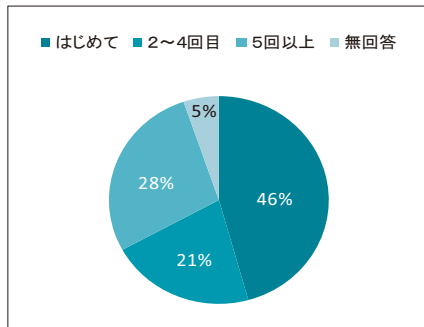


みんなく
携帯サイト

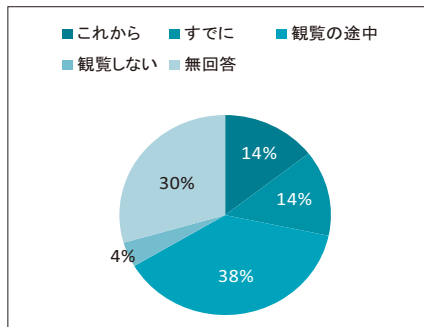
企画展 「インド ポピュラー・アートの世界～近代西欧との出会いと展開」 アンケートグラフ

○ アンケート回答数 173件

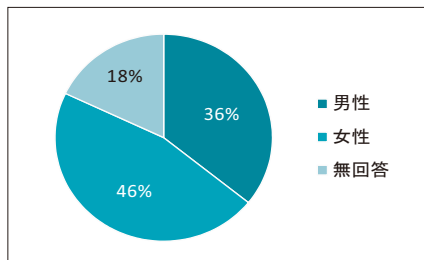
来数回館



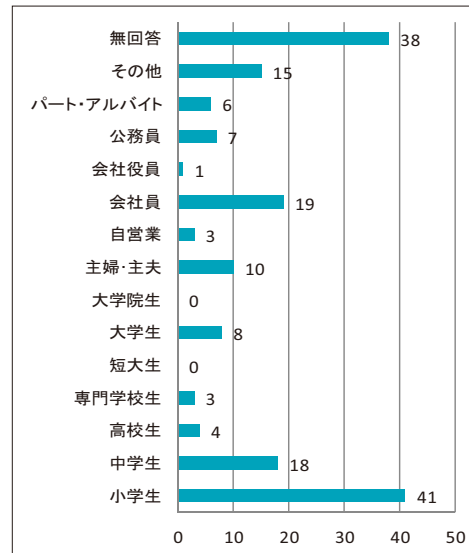
常設展示場の観覧について



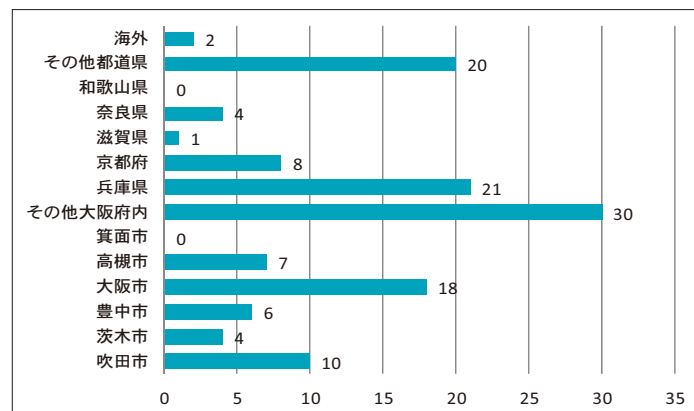
性別（男女比）



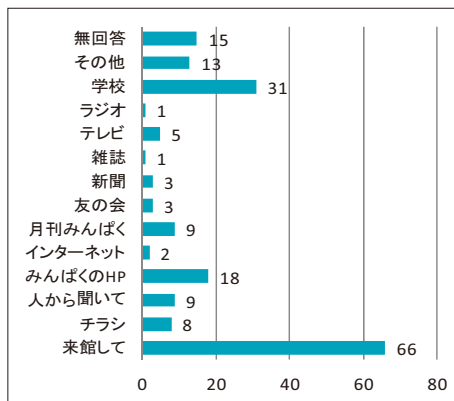
職業



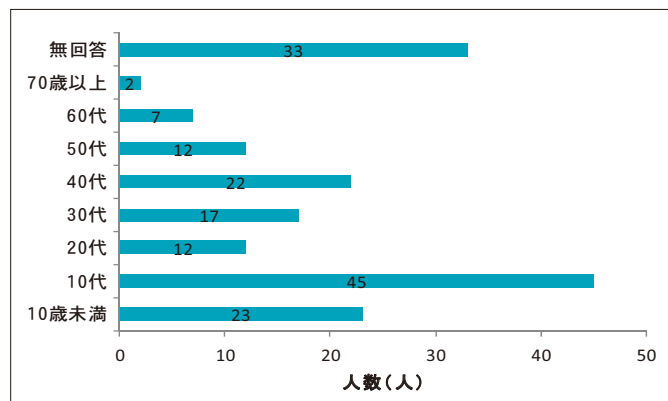
どこから来られましたか？



企画展を知ったのは（複数回答）



年代別



たつ

年末年始展示イベント

龍

竜

辰



平成23年12月15日(木)～平成24年1月31日(火)
国立民族学博物館 企画展示場B



国立民族学博物館
National Museum of Ethnology

2012 年の干支である「たつ」をテーマに、みんぱく収蔵の資料と世界各地の「たつ」にかかわる興味深い情報を紹介いたします。年末年始の一日を、世界の人びとと「たつ」のつながりに触れながらみんぱくで過ごしてみませんか？

関連イベント

● みんぱくウィークエンド・サロンー研究者と話そう

日 時 : 2011 年 12 月 18 日 (日)
 時 間 : 14 : 30 ~ 15 : 30
 場 所 : 企画展示場 B
 参加費 : 無料 ※別途、観覧料が必要です
 担 当 : 岩谷洋史 (本館機関研究員)

● みんぱくミュージアムパートナーズ (MMP) 企画「えとの辰で絵馬をつくろう」

本館展示場にある「たつ」をスケッチするワークショップです。

日 時 : 2012 年 1 月 8 日 (日)
 時 間 : 10 : 30 ~ 16 : 00 (随時実施)
 場 所 : 1 階エントランスホール
 参加費 : 無料 当日受付 ※別途、観覧料が必要です

● みんぱくミュージアムパートナーズ (MMP) 企画「おりがみで遊ぼう！～干支シリーズ～『辰』

ありがみで干支を折るワークショップです。

日 時 : 2012 年 1 月 9 日 (月・祝) 無料観覧日
 時 間 : 10 : 00 ~ 10 : 30 / 11 : 00 ~ 11 : 30 ~
 13 : 00 ~ 13 : 30 / 14 : 10 ~ 14 : 40 ~ (各回 30 分程度)
 場 所 : 1 階エントランスホール
 参加費 : 無料 当日受付 (各回 10 名程度)

● ワークショップ 「たつを探して大きなパズルをとこう！」

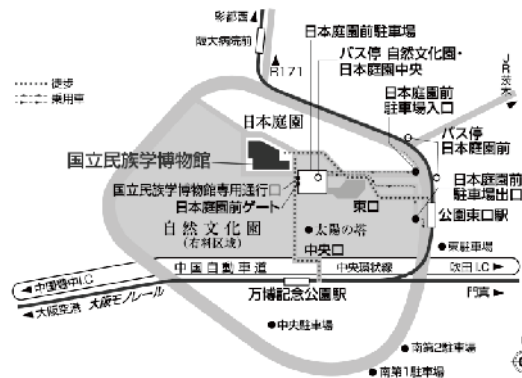
本館展示場にある「たつ」を見たり、写真を撮ったりして、大きなジグソーパズルをといていきます。

※カメラをお持ちでない方も参加可能です。

日 時 : 2012 年 1 月 9 日 (月・祝) 無料観覧日
 時 間 : 10 : 00 ~ 16 : 30 (受付開始 10 : 00 ~)
 場 所 : 2 階ナビひろば集合
 参加費 : 無料 当日受付 (先着 20 名まで)

● みんぱく教員によるギャラリートーク

日 時 : 2012 年 1 月 9 日 (月・祝) 無料観覧日
 時 間 : ① 11 : 00 ~ 11 : 30 ② 14 : 00 ~ 14 : 30
 場 所 : 企画展示場 B
 参加費 : 無料
 担 当 : 岩谷洋史 (本館機関研究員)



【開館時間】午前 10 時 ~ 午後 5 時 (入館は午後 4 時 30 分まで)

【休 館 日】水曜日、年末年始 (12 月 28 日 ~ 1 月 4 日)

【観 覧 料】一般 420 (350) 円 高校・大学生 250 (200) 円
 小・中学生 110 (90) 円

() は、20 名以上の団体料金、大学等*の授業でご利用の方、授業レポート等の作成を目的とする高校生、3 ヶ月以内のリポーター、満 65 歳以上の方の割引料金 (要証明書等) *大学等は、短大、大学、大学院、専修学校の専門課程。

※自然文化園 (有料区域) を通ってこられる場合、自然文化園各ゲート脇の券売機で当館 (国立民族学博物館) の観覧券をお買い求めください。同園内を無料で通行できます。

※障害者手帳をお持ちの方は、付添者 1 名とともに無料で観覧できます。また、毎週土曜日は、小学生・中学生・高校生は無料で観覧できます。ただし、自然文化園を通行される場合は、同園の入園料が別途必要です。

【お問い合わせ先】

国立民族学博物館

〒565-8511 大阪府吹田市千里万博公園 10 番 1 号
 06-6876-2151 (代表) <http://www.minpaku.ac.jp/>



【交通のご案内】

国立民族学博物館 (みんぱく) は大阪・千里の万博記念公園内にあります。

●大阪モノレール：「万博記念公園駅」下車徒歩約 15 分 (展示場をご覧になる方は、みんぱくの観覧券をゲートにてお買い求めになれば無料で通行できます。「公園東口駅」下車徒歩約 15 分 (「公園東口駅」からは自然文化園を通行せずに来館できます。)

●バス：(近鉄バス) (阪大本部前行き) 阪急茨木市駅から約 20 分・JR 茨木駅から約 10 分「日本庭園前」下車、徒歩約 15 分、(阪急バス) (万博記念公園駅経由千里中央行き) 阪急茨木市駅から約 20 分、JR 茨木駅から約 10 分「自然文化園・日本庭園中央」下車、徒歩約 5 分

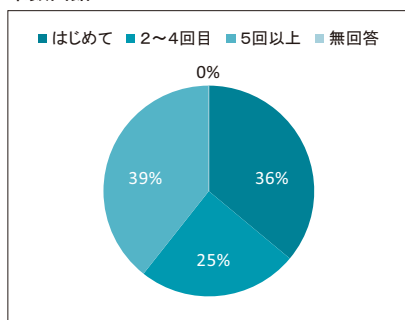
●タクシー：万博記念公園「日本庭園前駐車場」まで乗り入れることができます。下車、徒歩約 5 分

●自動車：駐車施設が無い「みんぱく」への車の乗り入れはできません。万博記念公園の駐車場 (有料) をご利用願います。最寄り「日本庭園前駐車場」から徒歩約 5 分 (「日本庭園前駐車場」をご利用の方は、「日本庭園前ゲート」横にある国立民族学博物館専用通行口をお通ください。)

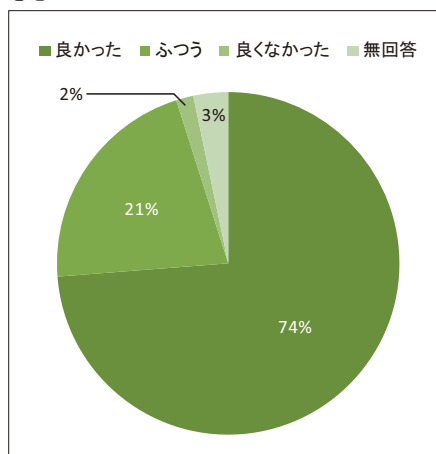
年末年始展示イベント「たつ」 アンケートグラフ

○ アンケート回答数 61件

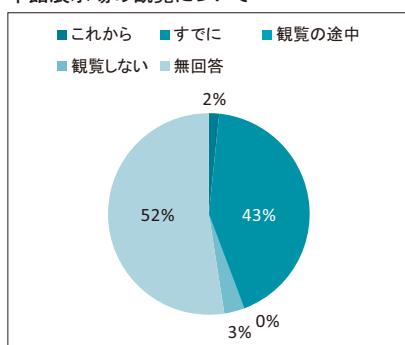
来数回館



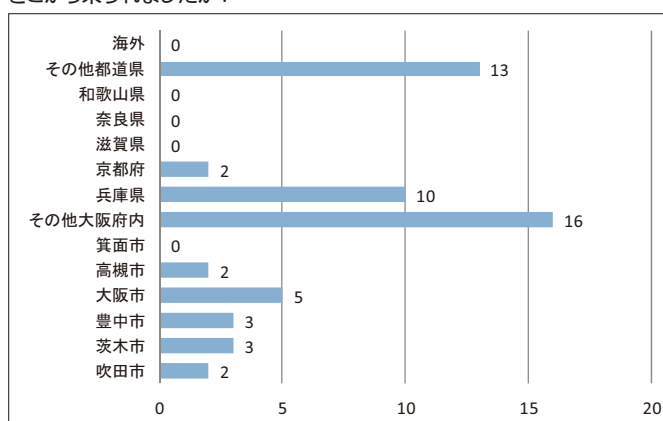
感想



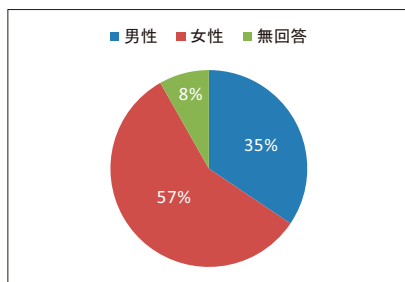
本館展示場の観覧について



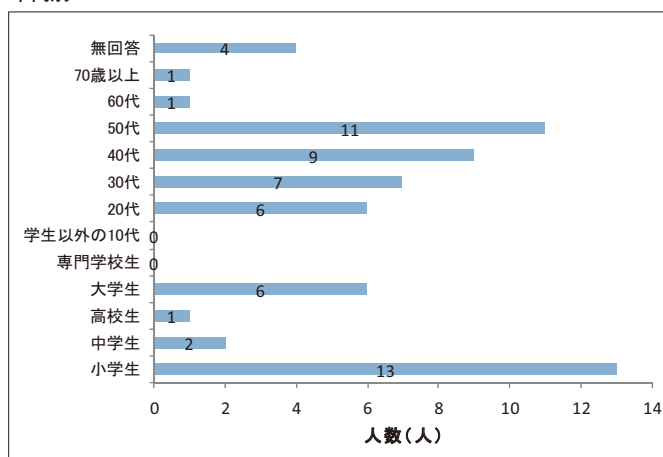
どこから来られましたか？



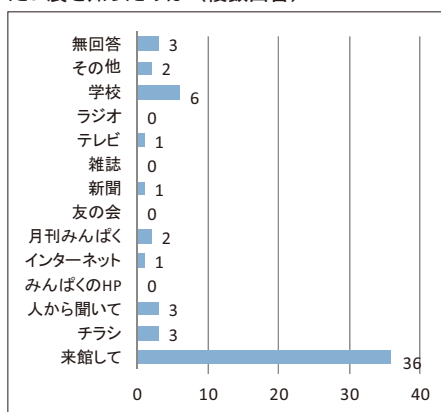
性別（男女比）



年代別



たつ展を知ったのは（複数回答）



ヨーロッパ展示と インフォメーション・ゾーンが 新しくなりました。



Europe

ヨーロッパ展示

ヨーロッパは、16世紀から20世紀にかけて、キリスト教や近代の諸制度をはじめ、さまざまな技術や知識を世界各地に移植しました。現代、この流れが逆転するなかで、世界中からの移民とともに、彼らの文化も社会の一部となりつつあります。ここでは、時間の流れに注目しながら伝統的な生活様式と宗教、近代の産業化、さらに現代の新しい動きが層をなしてヨーロッパをつくりあげていることを示しています。



Information Zone インフォメーション・ゾーン

本館2階展示場のうち、中央パティオ「未来の遺跡」を取り囲む回廊部分を、インフォメーション・ゾーンと呼んでいます。インフォメーション・ゾーンは、展示場への導入の役割を果たす「イントロダクション展示」、みんぱくの研究や展示をより詳しく知ることができる「探究ひろば」、世界のさまざまな地域の生活や文化を紹介した映像番組を視聴できる「ビデオテーク」から構成されています。みんぱくの展示とその外に広がる世界を情報でつなぐ空間、それがインフォメーション・ゾーンです。このゾーンは、無料でご利用いただけます。



新 展示関連 イベント

新しくなったインフォメーション・ゾーンとヨーロッパ展示をみなさまにもっと楽しんでいただけるよう、研究公演、みんぱく映画会、みんぱくゼミナール、みんぱくウィークエンド・サロン、展示場クイズなど、魅力的な関連イベントを開催します。詳細が決まり次第、ホームページ (<http://www.minpaku.ac.jp/>) に掲載いたします。

新インフォメーション・ゾーン 探究ひろば関連

2012年 6月24日(金)～8月25日(金)



夏のみんぱくフォーラム 2012

知りたい、触れたい、調べたい —「みんぱく流」探究のすすめ

情報社会といわれる今日、博物館は情報をあつめ、発信するためのメディアとして期待されています。新設した探究ひろばを中心にしながら、みんぱくの情報を活用した知的探究の時間をともに過ごしましょう。

新ヨーロッパ展示関連

2013年 1月～3月 予定



「イメージファインダー」で展示資料を調べることができます。

みんぱくゼミナール

一般社会人及び学生を対象にして、研究者が最新の研究成果を分かりやすく講演します。

毎月第3土曜日・無料・申込不要

みんぱくウィークエンド・サロン—研究者と話そう

研究者が展示場に登場し、「現在取り組んでいる研究」「調査している地域(国)」
「みんぱくの展示資料」についてお話しします。「それはどうして?」「これは何?」など、
みなさまの「もっと知りたい!」を、この機会にどんどんお寄せください。

毎週日曜日・要観覧料・申込不要

※研究公演、みんぱく映画会等のイベント実施日および無料観覧日を除きます。
※都合により、予定を変更することがあります。

みんぱくご利用案内

- 開館時間…… 10:00～17:00 (入館は16:30まで)
- 休館日…… 水曜日(水曜日が祝日の場合は、翌日が休館)
- 無料観覧日…… 2012年5月5日(金)・音楽の祭日<7月予定>、万国博覧会閉幕記念の日<9月予定>、9月17日(金)・音楽の祭日、11月3日(金)・関西文化の日<11月予定>、2013年1月14日(金)・音楽の祭日、万国博覧会ふれあいの日<3月予定> 日程が決まり次第、ホームページに掲載します。

●観覧料……	一般 420円 (350円)	高校・大学生 250円 (200円)	小・中学生 110円 (90円)
--------	-------------------	-----------------------	---------------------

※特別展の観覧料は、その都度別に定めます。
()は、20名以上の団体料金、大学等*の授業でご利用の方、授業レポート等の作成

を目的とする高校生、3ヶ月以内のリピーター、満65歳以上の方の割引料金(要証明書等)
*大学等は、短大、大学、大学院、専修学校の専門課程

- ※全国のチケットぴあ(Pコード:673-285)、サークルKサンクス、ローソン(Lコード:57144)、セブンイレブンで本館展示割引観覧券(一般350円 購入日から1年間有効)をお買い求めいただけます。
- ※自然文化園(有料区域)を通過してこられる場合、自然文化園各ゲート脇の券売機で当館(国立民族学博物館)の観覧券をお買い求めください。同園内を無料で通行できます。
- ※障がい者手帳をお持ちの方は、付添者1名とともに無料で観覧できます。
- ※毎週土曜日は、小学生・中学生・高校生は無料で観覧できます。ただし、自然文化園(有料区域)を通行される場合は、同園の入園料が必要です。

交通のご案内

*国立民族学博物館(みんぱく)は大阪・千里の万博記念公園内にあります。
「みんぱく」とは大学共同利用機関法人 人間文化研究機構国立民族学博物館の愛称です。

- 大阪モノレール……「万博記念公園駅」下車徒歩約15分
*自然文化園(有料区域)を通行される場合は、入園料が必要となります。
「公園東口駅」下車徒歩約15分
*「公園東口駅」からは自然文化園(有料区域)を通行せずに来館できます。
- バス……[近鉄バス] (阪大本部行き) 阪急茨木市駅から約20分
JR 茨木駅から約10分「日本庭園前」下車、徒歩約15分
[阪急バス] (万博記念公園駅経由千里中央行き)
阪急茨木市駅から約20分、JR 茨木駅から約10分
「自然文化園・日本庭園中央」下車、徒歩約5分
- タクシー……万博記念公園「日本庭園前駐車場」まで乗り入れることができます。下車、徒歩約5分
- 乗用車……駐車場が無い「みんぱく」への車の乗り入れはできません。
万博記念公園の駐車場(有料)をご利用願います。最寄り「日本庭園前駐車場」から約5分
*「日本庭園前駐車場」をご利用の方は、「日本庭園前ゲート」横にある
「国立民族学博物館専用通行口」をお通りください。



国立民族学博物館

●お問い合わせ
国立民族学博物館
〒565-8511 大阪府吹田市千里万博公園10番1号
Tel:06-6876-2151(代)
<http://www.minpaku.ac.jp/>

みんぱく
携帯サイト





スタッフ紹介

(2011年度)



スタッフ紹介 (2011年度)

朝倉敏夫 [あさくら としお] センター長 (併) 教授

久保正敏 [くぼ まさとし] 教授

小林繁樹 [こばやし しげき] 教授

園田直子 [そのだ なおこ] 教授

吉田憲司 [よしだ けんじ] 教授

飯田 卓 [いいだ たく] 准教授

日高真吾 [ひだか しんご] 准教授

福岡正太 [ふくおか しょうた] 准教授

南真木人 [みなみ まきと] 准教授

山本泰則 [やまもと やすのり] 准教授

伊藤敦規 [いとう あつのり] 助教

上羽陽子 [うえば ようこ] 助教

岩城晴貞 [いわき はるさだ] 客員教員

中村嘉志 [なかむら よしゆき] 客員教員

平井康之 [ひらい やすゆき] 客員教員

岩谷洋史 [いわたに ひろふみ] 機関研究員

関根理恵 [せきね よしえ] 機関研究員